

Nutanix (AHV) 設置手順書

HPE ProLiant DX320・360・380 Gen11 版

Rev. 3.0

ダイワボウ情報システム株式会社
ディーアイエスサービス&ソリューション株式会社

目次

免責事項	4
1. はじめに	5
1.1 本手順書について	5
1.2 対象となる製品・バージョン	5
1.3 作業の流れ	5
2. 事前準備	6
2.1 操作端末の用意	6
3. ProLiant DX の設置	7
3.1 ProLiant DX320 Gen11 の設置	7
3.2 ProLiant DX360 Gen11 の設置	11
3.3 ProLiant DX380 Gen11 の設置	14
4. Nutanix の起動	17
4.1 ProLiant DX の起動	17
4.2 iLO からのステータス確認	17
4.3 ハイパーバイザー(AHV)へのログイン確認	20
4.4 CVM へのログイン確認	21
4.5 Nutanix クラスターの起動	22
4.6 Prism Element へのログイン	23
5. 設定内容の確認	24
5.1 AOS バージョンの確認	24
5.2 ノード数・ノードの IP アドレスの確認	25
5.3 クラスター名とクラスター仮想 IP アドレスの確認	26
5.4 Redundancy Factor の確認	27
5.5 NTP、DNS サーバーの確認	28
5.6 Pulse 設定値の確認	30
5.7 ストレージコンテナの確認	31
6. Prism Central のデプロイ・設定	33
6.1 Prism Central のデプロイ	33
6.2 クラスターの登録	38
6.3 Prism Central への SSH ログイン	40
6.4 Prism Central の停止	41
6.5 Prism Central の起動	42

7. Nutanix の停止	43
7.1 Nutanix クラスターの停止	43
7.2 CVM のシャットダウン	44
7.3 ハイパーバイザー(AHV)のシャットダウン	44
8. 参考情報	46
8.1 Prism Element の日本語化	46
8.2 サポートポータルユーザー登録について	48
8.3 オーソライズド・ドメインについて	48
8.4 ライセンス適用について	48
8.5 ハイパーバイザー、CVM のパスワードについて	48
8.6 Nutanix 社への問い合わせについて	48
8.7 HPE 保守サポートについて	48
8.8 Nutanix リンク集	48
9. 改訂履歴	50

免責事項

- 本文書は、2024 年 7 月 1 日時点の情報に基づき作成されたものです。本文書作成以降にリリースされたバージョンにて、仕様の追加・変更・削除が行われている場合がございます。正式な仕様は Nutanix サポートポータルに掲載されたリリースノートや最新の製品ドキュメントをご参照ください。
- 本文書の記述が正確なものとなるように努めました。本文書に含まれるすべての情報が完全に正確であることを保証するものではありません。また、本文書の内容に起因する直接的および間接的な損害に対してダイワボウ情報システム株式会社、およびディーアイエスサービス&ソリューション株式会社は一切の責任を負いません。
- 本文書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 本文書に記載されている会社名、製品名は一般に各社の登録商標または商標です。

1. はじめに

1.1 本手順書について

本手順書は弊社 Nutanix Foundation 作業にて設定した Nutanix を設置・起動し、設定の確認に必要な手順を記載したものです。

1.2 対象となる製品・バージョン

本手順書では以下の製品に対する手順を記載しています。異なる製品、バージョンをご利用の場合は、手順が一部異なる可能性がありますので、ご注意ください。

Nutanix ノード	HPE ProLiant DX 320 Gen11 HPE ProLiant DX 360 Gen11 HPE ProLiant DX 380 Gen11
ハイパーバイザー	AHV
AOS	6.5 (LTS)

1.3 作業の流れ

本手順書は、以下の流れで作業を実施する際の手順を記載しています。

- ProLiant DX の設置
- Nutanix の起動
- 設定内容の確認
- Prism Central のデプロイ・設定
- Nutanix の停止

2. 事前準備

2.1 操作端末の用意

Nutanix の操作、確認作業に使用する操作端末(PC)をご用意ください。

本手順書では、ブラウザを使用して Nutanix の Web 管理画面である Prism と、HPE ProLiant の管理エンジン/ツールである iLO にアクセスします。操作端末に以下のブラウザがインストールされていることをご確認ください。本手順書では Google Chrome を使用しています。

〈Prism サポートブラウザ〉

- Google Chrome
- Firefox
- Safari
- Microsoft Edge

〈iLO6 サポートブラウザ〉

- Google Chrome
- Firefox
- Microsoft Edge

また、操作端末から CVM、ハイパーバイザー(AHV)に SSH 接続しますので、ターミナルソフトがインストールされていることをご確認ください。本手順書では TeraTerm を使用しています。

操作端末が、CVM、ハイパーバイザー(AHV)、iLO にアクセスできるようなネットワーク環境をご準備ください。

3. ProLiant DX の設置

ProLiant DX320 Gen11、DX360 Gen11、DX380 Gen11 をラックマウントし、電源ケーブル、ネットワークケーブルを接続します。

DX320 Gen11 を設置される場合は「[3.1 ProLiant DX320 Gen11 の設置](#)」、DX360 Gen11 を設置される場合は「[3.2 ProLiant DX360 Gen11 の設置](#)」、DX380 Gen11 を設置される場合は「[3.3 ProLiant DX380 Gen11 の設置](#)」をご参照ください。

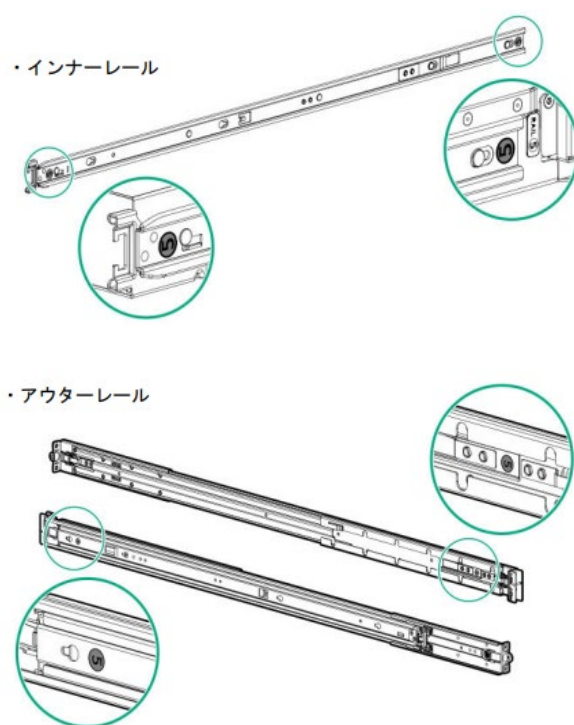
3.1 ProLiant DX320 Gen11 の設置

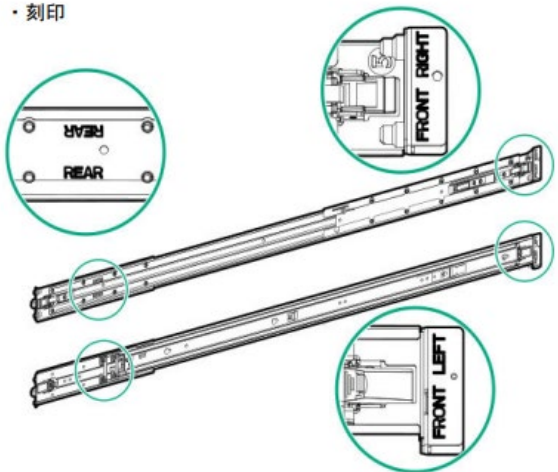
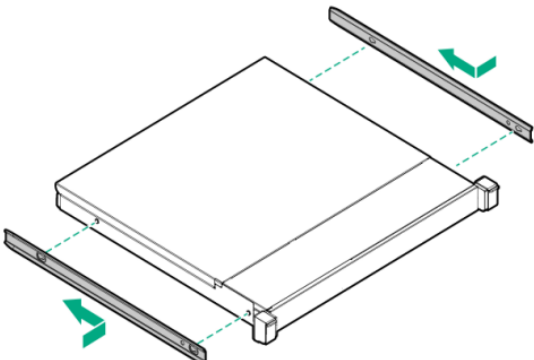
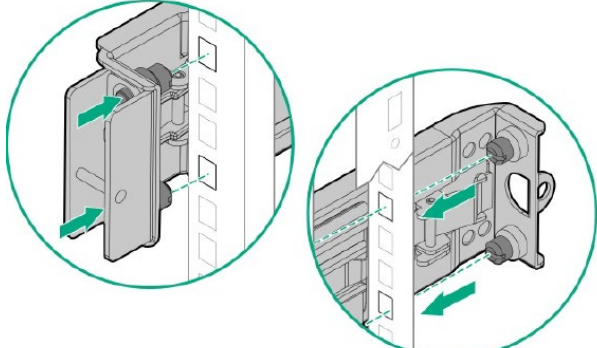
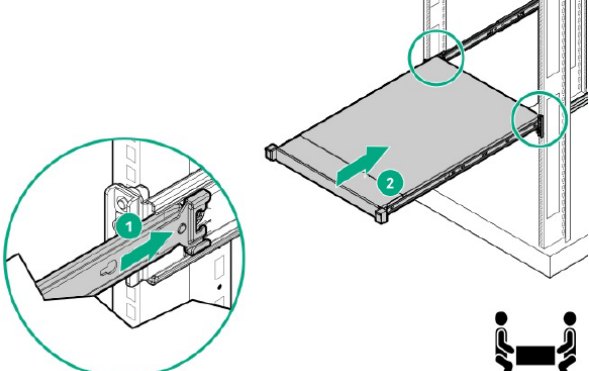
3.1.1 DX320 Gen11 ラッキング

以下の手順でラックマウントします。

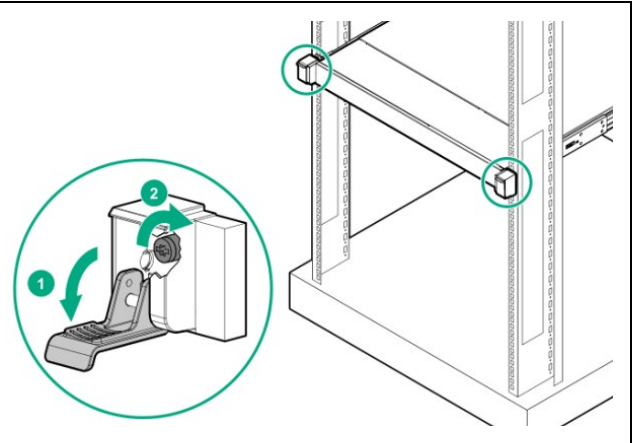
※サーバーの天板に iLO のアクセスパスワードが記載されたシールが貼られています。手順「[4.2 iLO からのステータス確認](#)」にて使用しますので、ラッキング前にパスワードを控えておいてください

1. サーバーに同梱されているレールキットを開梱し、レールを取り出します。
インナーレール、アウターレールの向きを確認します。
アウターレールには「Right」、「Left」の刻印がありますので左右を確認し、「Front」、「Lear」の刻印がありますので、前後を確認します。
インナーレールには前後、左右の刻印はありませんので、右の図を参照して確認してください。



	・ 刻印 
2. 本体の前面から見て左に左インナーレール、右にインナーレールを取り付けます。 インナーレールを本機側面の突起に合わせて、本機背面側にスライドさせます。このときにインナーレールの中央付近にあるロックが「カチッ」と音がして、ロックされたことを確認してください。	
3. ラックの前面から見て左にアウターレール(LEFT)、右にアウターレール(RIGHT)を取り付けます。アウターレールの丸い突起を 19 型ラックの角穴に入れて取り付けます。このときに「カチッ」と音がしてロックされたことを確認してください。	
4. 2 人以上でサーバーを持ち、ラックへ取り付けます。 両側のインナーレールがアウターレールに正しく入っていることを確認します①。 前面のロックが「カチッ」と音がするまでゆっくり押し込み、サーバーを固定します②。	 

5. サーバーをラックにネジ止めしたい場合は、装置の耳部分の蓋を開け、中にあるネジをトルクスドライバーで締め付け、ラックに本体を固定します。



以上でラックマウント作業は完了です。

3.1.2 DX320 Gen11 電源ケーブルの接続

パワーサプライに電源ケーブルを接続します。電源ケーブルはご利用の電源環境に応じたものをご利用ください。



3.1.3 DX320 Gen11 ネットワークケーブルの接続

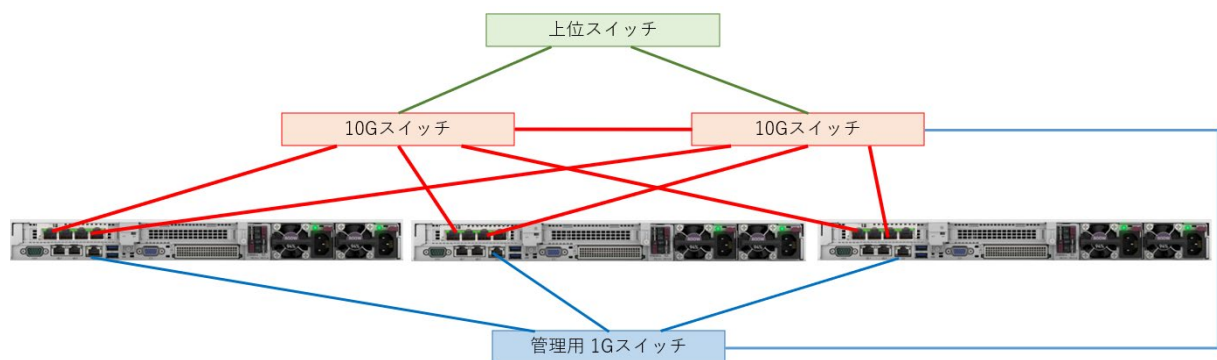
- ・ 各ノードの 10Gbps ネットワークインターフェースとネットワークスイッチを接続します。1 ノードにつき 2 ポート以上接続してください。
- ・ DX320 Gen11 では標準で 1Gbps のオンボードネットワークインターフェースが搭載されています。仮想マシン用としてご使用頂くことは可能ですが、CVM・ハイパーバイザー(AHV)のネットワークインターフェースとしてはご使用頂けません。
- ・ サーバーが SFP+コネクタを持つ場合は、SFP+コネクタとネットワークスイッチを対応ケーブル・モジュールで接続してください。
- ・ 弊社の Foundation 作業実施後は、アクティブ・バックアップモードでボンディング(チーミング)が組まれています。ボンディングモードの変更方法などは Nutanix サポートポータル内の資料をご参照ください。
- ・ iLO 管理ポートをネットワークスイッチに接続します。CVM・ハイパーバイザー(AHV)と iLO が異なるネットワークに属する場合は、ルーティングさせて通信できるようにしてください。

[ポート配置]

※機器構成により 10Gbps ネットワークインターフェースの配置は異なります



[接続例]



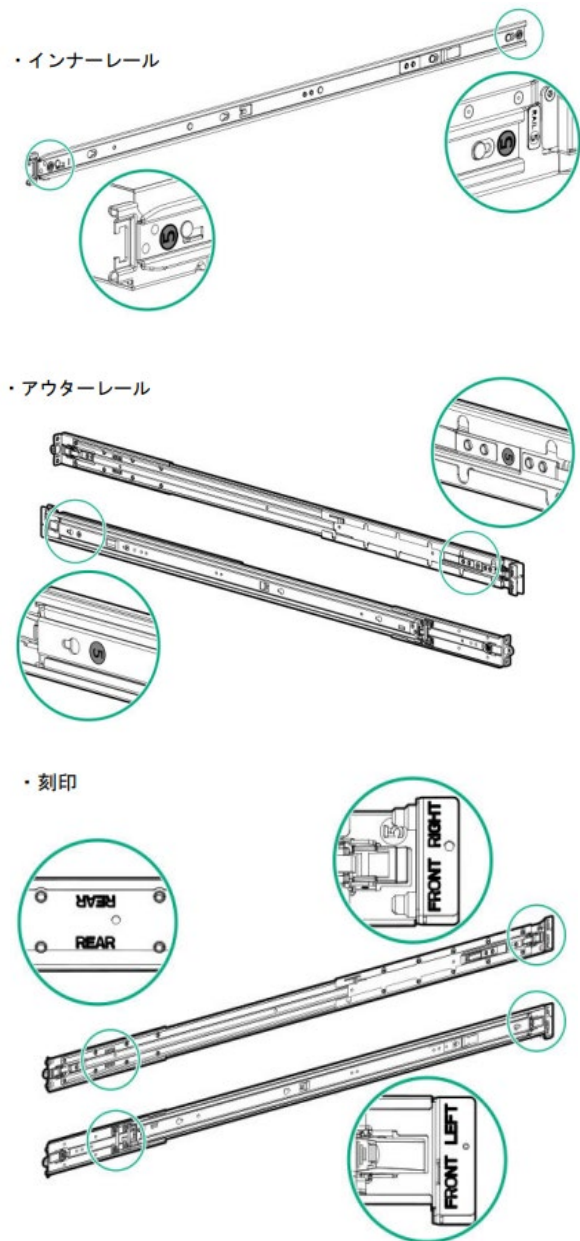
3.2 ProLiant DX360 Gen11 の設置

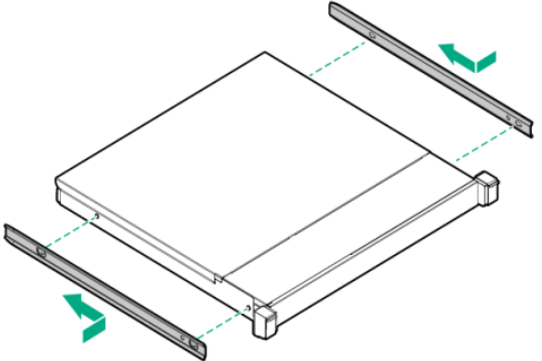
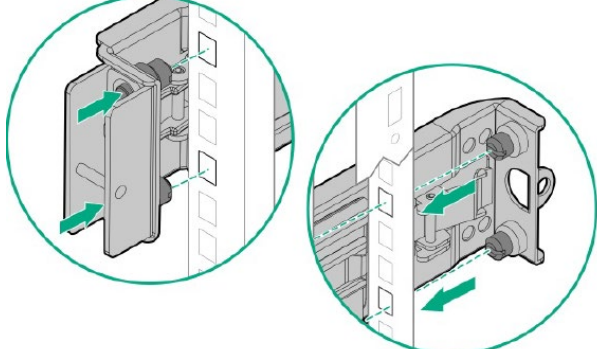
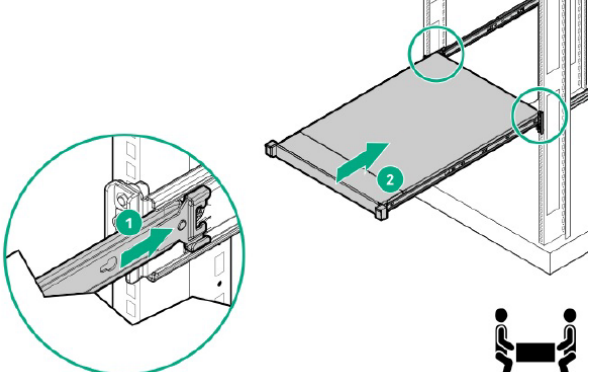
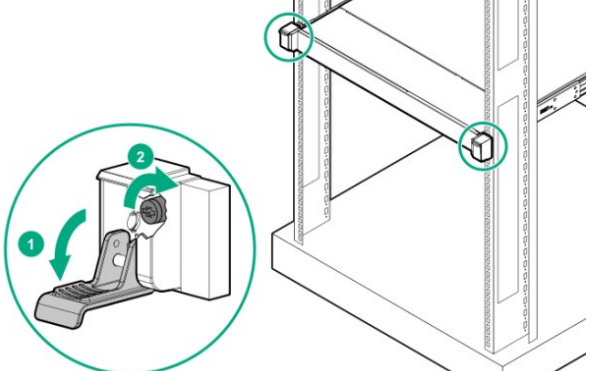
3.2.1 DX360 Gen11 ラッキング

以下の手順でラックマウントします。

※サーバーの天板に iLO のアクセスパスワードが記載されたシールが貼られています。手順「[4.2 iLO からのステータス確認](#)」にて使用しますので、ラッキング前にパスワードを控えておいてください

1. サーバーに同梱されているレールキットを開梱し、レールを取り出します。
インナーレール、アウターレールの向きを確認します。
アウターレールには「Right」、「Left」の刻印がありますので左右を確認し、「Front」、「Rear」の刻印がありますので、前後を確認します。
インナーレールには前後、左右の刻印はありませんので、右の図を参照して確認してください。



2. 本体の前面から見て左に左インナーレール、右にインナーレールを取り付けます。 インナーレールを本機側面 4 か所の突起に合わせて、本機背面側にスライドさせます。このときにインナーレールの中央付近にあるロックが「カチッ」と音がして、ロックされたことを確認してください。	
3. ラックの前面から見て左にアウターレール(LEFT)、右にアウターレール(RIGHT)を取り付けます。アウターレールの丸い突起を 19 型ラックの角穴に入れて取り付けます。このときに「カチッ」と音がしてロックされたことを確認してください。	
4. 2 人以上でサーバーを持ち、ラックへ取り付けます。 両側のインナーレールがアウターレールに正しく入っていることを確認します①。 前面のロックが「カチッ」と音がするまでゆっくり押し込み、サーバーを固定します②。	
5. サーバーをラックにネジ止めしたい場合は、装置の耳部分の蓋を開け、中にあるネジをトルクスドライバーで締め付け、ラックに本体を固定します。	

以上でラックマウント作業は完了です。

3.2.2 DX360 Gen11 電源ケーブルの接続

パワーサプライに電源ケーブルを接続します。電源ケーブルはご利用の電源環境に応じたものをご利用ください。

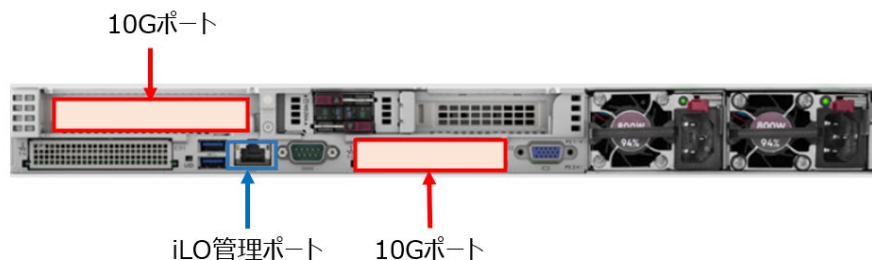


3.2.3 DX360 Gen11 ネットワークケーブルの接続

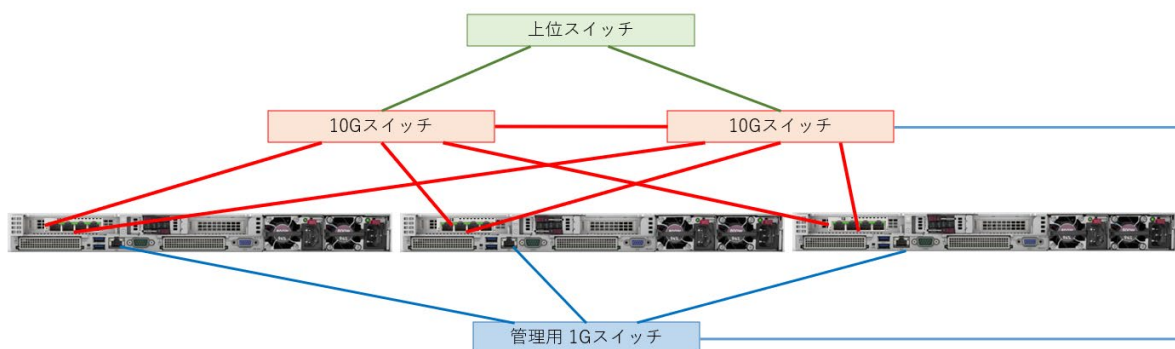
- ・ 各ノードの 10Gbps ネットワークインターフェースとネットワークスイッチを接続します。1 ノードにつき 2 ポート以上接続してください。
- ・ サーバーが SFP+コネクタを持つ場合は、SFP+コネクタとネットワークスイッチを対応ケーブル・モジュールで接続してください。
- ・ 弊社の Foundation 作業実施後は、アクティブバックアップモードでボンディング(チーミング)が組まれています。ボンディングモードの変更方法などは Nutanix サポートポータル内の資料をご参照ください。
- ・ iLO 管理ポートをネットワークスイッチに接続します。CVM・ハイパーバイザー(AHV)と iLO が異なるネットワークに属する場合は、ルーティングさせて通信できるようにしてください。

[ポート配置]

※機器構成により 10Gbps ネットワークインターフェースの配置は異なります



[接続例]

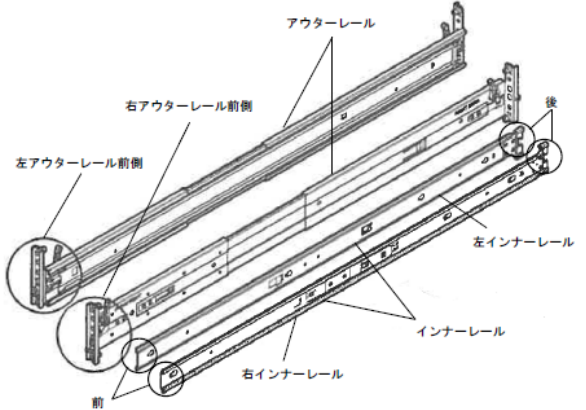
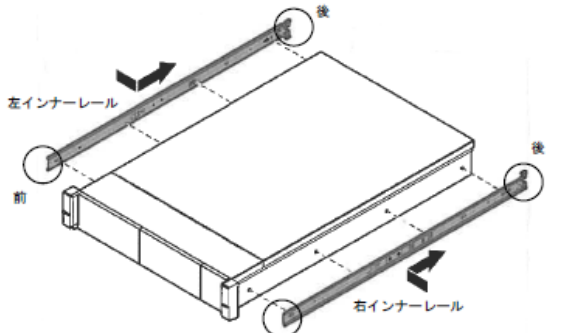
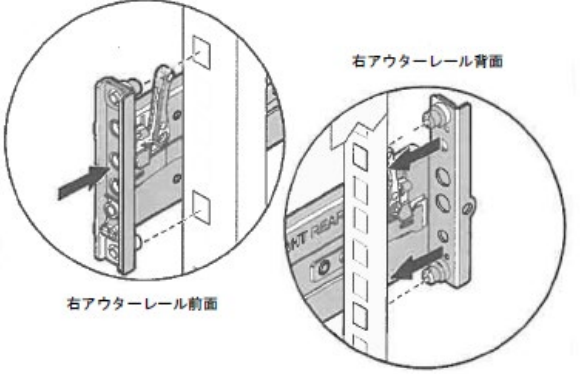
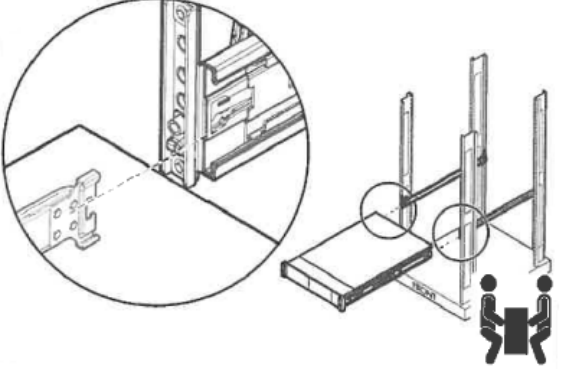


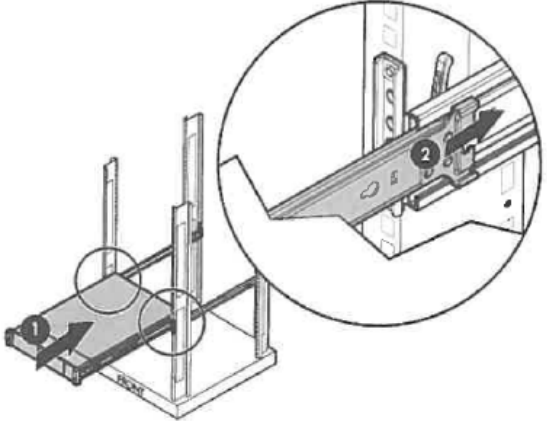
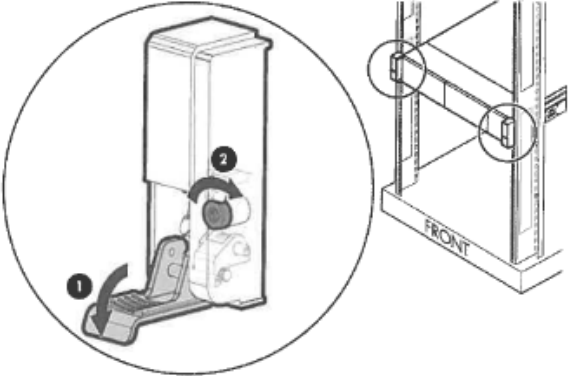
3.3 ProLiant DX380 Gen11 の設置

3.3.1 DX380 Gen11 ラッキング

以下の手順でラックマウントします。

※サーバーの天板に iLO の アクセスパスワードが記載されたシールが貼られています。手順「[4.2 iLO からのステータス確認](#)」にて使用しますので、ラッキング前にパスワードを控えておいてください

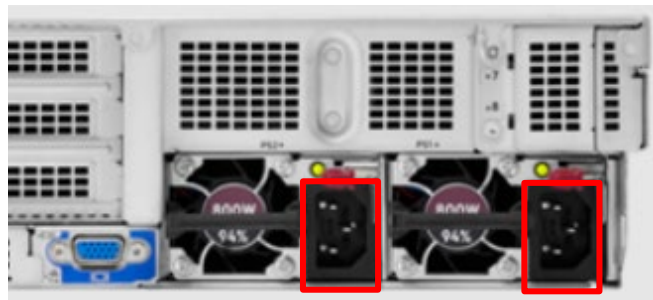
1. サーバーに同梱されているレールキットを開梱し、レールを取り出します。 インナーレール、アウターレールの向きを確認します。アウターレールには「Right」、「Left」の刻印がありますので左右を確認し、「Front」、「Rear」の刻印がありますので、前後を確認します。 インナーレールには前後、左右の刻印はありませんので、右の図を参照して確認してください。	
2. 本体の前面から見て左に左インナーレール、右にインナーレールを取り付けます。 インナーレールを本機側面 4 か所の突起に合わせて、本機背面側にスライドさせます。このときにインナーレールの中央付近にあるロックが「カチッ」と音がして、ロックされたことを確認してください。	
3. ラックの前面から見て左にアウターレール(LEFT)、右にアウターレール(RIGHT)を取り付けます。アウターレールの丸い突起を、19 型ラックの角穴に入れて取り付けます。この時に「カチッ」と音がして、ロックされたことを確認してください	
4. 2 人以上でサーバーを持ち、ラックへ取り付けます。 両側のインナーレールがアウターレールに正しく入っていることを確認します。 装置をゆっくりと奥に押し込みます。	

5. 前面のロックが「カチッ」と音がするまで押し込み、サーバーを固定します。	
6. サーバーをラックにネジ止めしたい場合は、装置の耳部分の蓋を開け、中にあるネジをトルクスドライバーで締め付け、ラックに本体を固定します。	

以上でラックマウント作業は完了です。

3.3.2 DX380 Gen11 電源ケーブルの接続

パワーサプライに電源ケーブルを接続します。電源ケーブルはご利用の電源環境に応じたものをご利用ください。

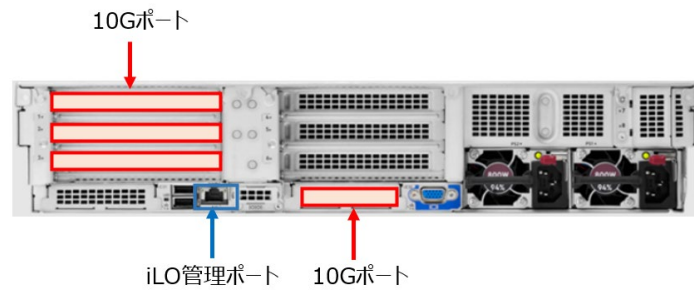


3.3.3 DX380 Gen11 ネットワークケーブルの接続

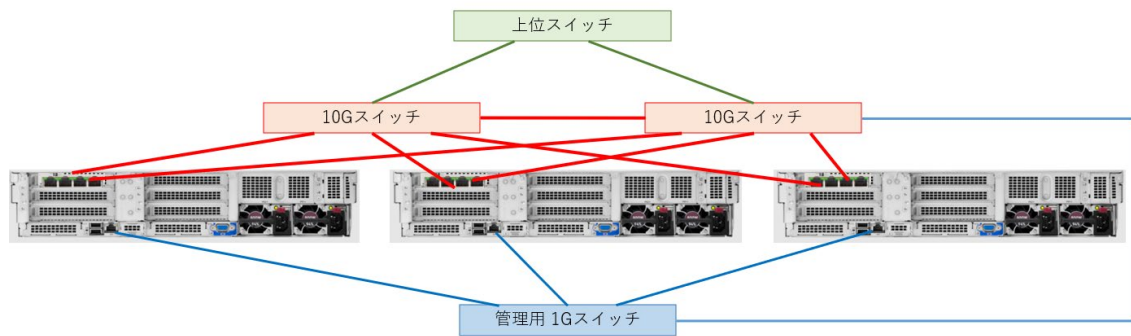
- 各ノードの 10Gbps ネットワークインターフェースとネットワークスイッチを接続します。1 ノードにつき 2 ポート以上接続してください。
- サーバーが SFP+コネクタを持つ場合は、SFP+コネクタとネットワークスイッチを対応ケーブル・モジュールで接続してください。
- 弊社の Foundation 作業実施後は、アクティブ・バックアップモードでボンディング(チーミング)が組まれています。ボンディングモードの変更方法などは Nutanix サポートポータル内の資料をご参照ください。
- iLO 管理ポートをネットワークスイッチに接続します。CVM・ハイパーバイザー(AHV)と iLO が異なるネットワークに属する場合は、ルーティングさせて通信できるようにしてください。

[ポート配置]

※機器構成により 10Gbps ネットワークインターフェースの配置は異なります



[接続例]



4. Nutanix の起動

ProLiant DX の電源を投入し、Nutanix を起動します。

4.1 ProLiant DX の起動

前面のオレンジ色に点灯している電源ボタンを押します。全てのノードに対して実施します。



例：DX380 Gen11 の電源ボタン

ハイパーバイザー(AHV)、CVM が起動するまで 10～15 分間待ちます。

4.2 iLO からのステータス確認

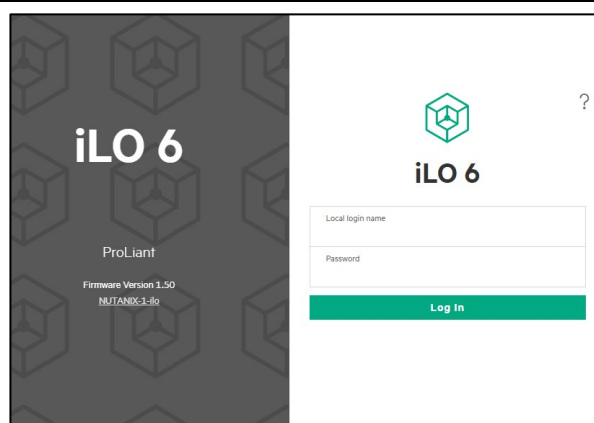
iLO に操作端末のブラウザからアクセスすることで、サーバーのステータス、コンソール画面を確認することができます。
iLO へのアクセスに必要な情報は以下の通りです。

iLO ログイン情報

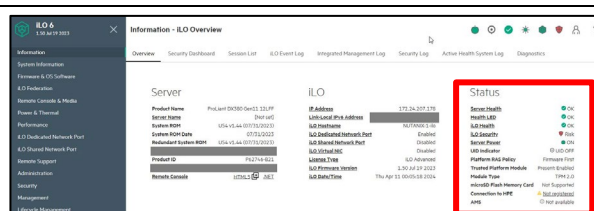
URL	https://「Foundation 作業依頼書」にご記入いただいた iLO のIPアドレス
ユーザー名	administrator
パスワード ※サーバー毎に異なります	サーバーの天板に貼られているシール(下図)をご参照ください 「Password」の後の英数字がパスワードです

以下の手順にて iLO にアクセスします。

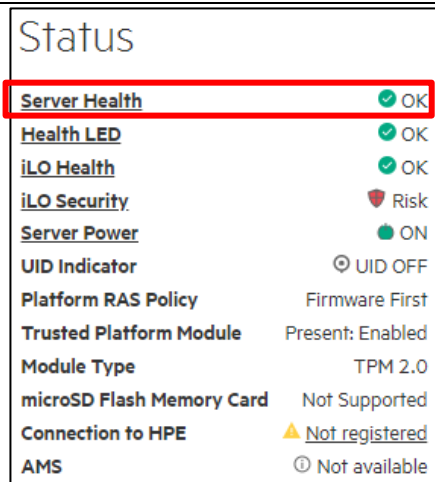
1. ブラウザから iLO にアクセスし、ユーザー名 (administrator) とパスワードを入力し、「Log In」ボタンをクリックします。



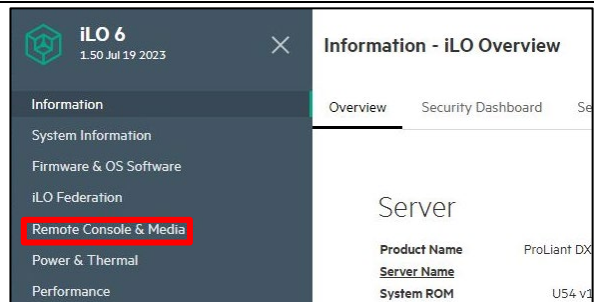
2. ログインが成功すると「Information」画面が表示されます。
「Status」欄を確認します。



3. サーバーのハードウェアが正常に動作している場合は、「System Health」に OK と表示されます。

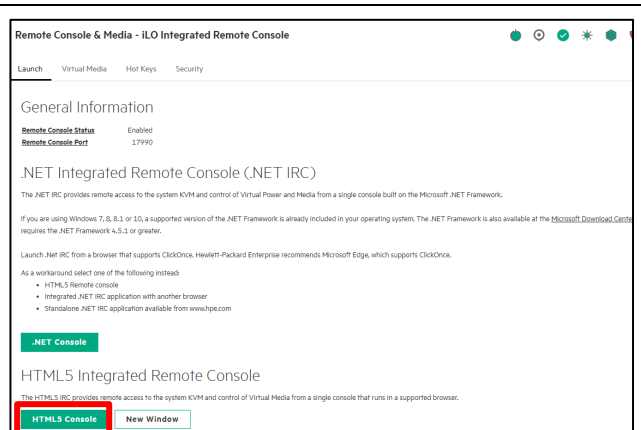


4. 画面表示を確認したいときは、左メニューの「Remote Console & Media」をクリックします。



5. 接続方式を選択します。ご利用の環境に応じて、「.NET Console」、「HTML5 Console」、「Java Web Start」から選択してください。

ここでは「HTML5 Console」を選択します。



6. コンソール画面が表示されます。BIOS やハイパーバイザー(AHV)の画面表示を確認することができます。



4.3 ハイパーバイザー(AHV)へのログイン確認

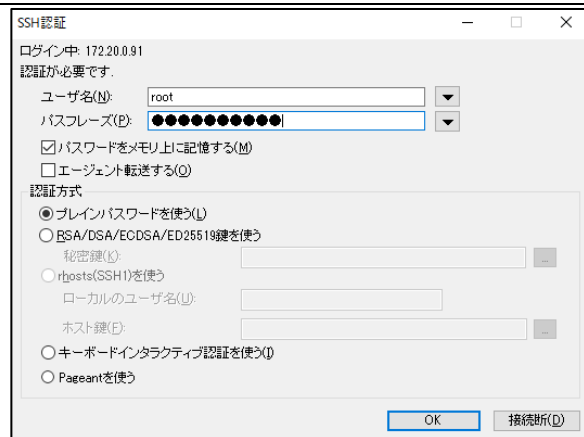
ハイパーバイザー(AHV)に操作端末から SSH で接続し、正常に起動しているか確認します。
ハイパーバイザー(AHV)へのログインに必要な情報は以下の通りです。

ハイパーバイザー(AHV)ログイン情報

IP アドレス	「Foundation 作業依頼書」にご記入いただいたハイパーバイザーのIPアドレス
ユーザー名	root
パスワード	nutanix/4u

以下の手順にてハイパーバイザー(AHV)にアクセスします。

1. TeraTerm などの SSH クライアントからハイパーバイザー(AHV)に接続します。



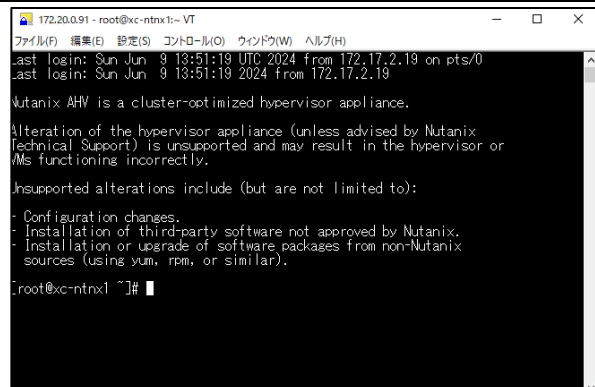
2. ログインに成功すると、以下のコマンドプロンプトが表示されます。

[root@AHV ホスト名~]#

正常に接続できない場合は、ネットワーク接続などをご確認ください。

exit コマンドでログアウトできます。

本手順をすべてのノードのハイパーバイザー(AHV)に対して実施してください。



4.4 CVM へのログイン確認

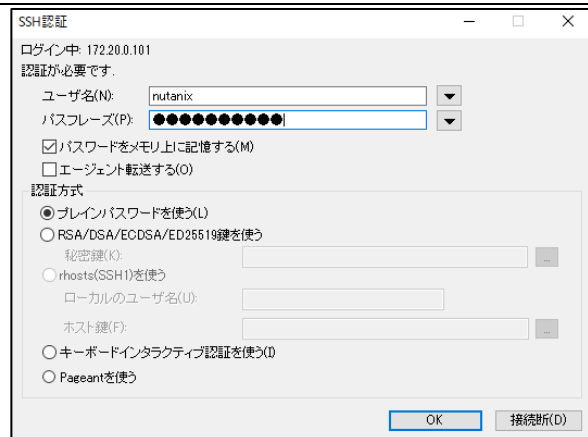
CVM に操作端末から SSH で接続し、正常に起動しているか確認します。
CVM へのログインに必要な情報は以下の通りです。

CVM ログイン情報

IP アドレス	「Foundation 作業依頼書」にご記入いただいた CVM IPアドレス
ユーザー名	nutanix
パスワード	nutanix/4u

以下の手順にて CVM にアクセスします。

1. TeraTerm などの SSH クライアントから CVM に接続します。



2. ログインに成功すると、以下のコマンドプロンプトが表示されます。

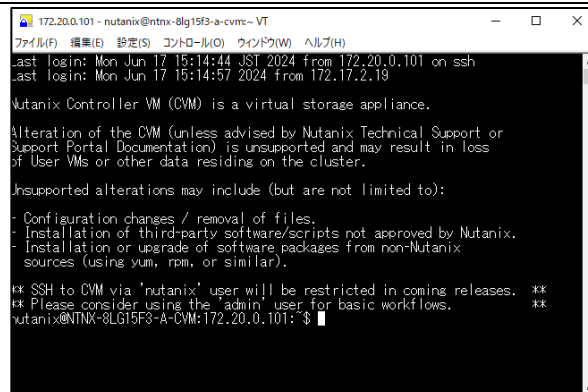
```
nutanix@CVM ホスト名:IP アドレス:$
```

正常に接続できない場合は、ネットワーク接続などをご確認ください。

exit コマンドでログアウトできます。

※次の手順では 1 台の CVM からコマンドを実行して Nutanix クラスターを起動させますので、全ての CVM からログアウトしないでください

本手順をすべてのノードの CVM に対して実施してください。



4.5 Nutanix クラスターの起動

CVM から以下の手順で Nutanix クラスターを起動させます。

※Nutanix クラスターの起動は、1 台のノードの CVM から実行します。

1. CVM から以下のコマンドを実行します。

```
$ cluster start
```

クラスターが起動するまでしばらく待ちます。

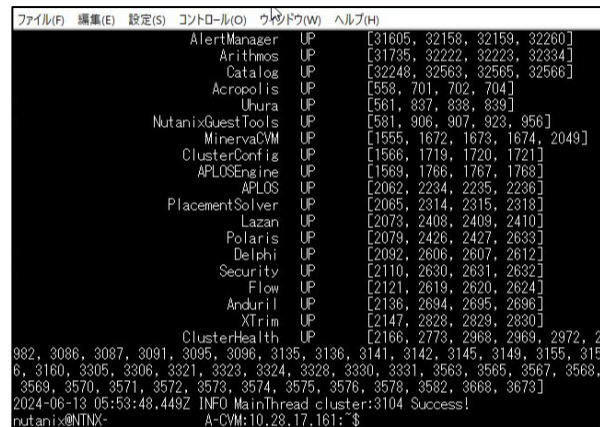
2. Nutanix クラスターの起動が完了すると以下のメッセージが表示されます。

```
INFO MainThread cluster:XXXX Success!
```

※XXXX は数字です



```
192.168.55.21 - Tera Term VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(C) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
nutanix@NTNX-8LG15F3-A-CVM:192.168.55.21: $ cluster start
```



```
AlertManager UP [31605, 32158, 32159, 32260]
Arithmos UP [31735, 32222, 32223, 32334]
Catalog UP [32248, 32563, 32565, 32566]
Acropolis UP [558, 701, 702, 704]
Uhura UP [561, 837, 838, 839]
NutanixGuestTools UP [581, 906, 907, 923, 956]
MinervaCVM UP [1555, 1672, 1673, 1674, 2049]
ClusterConfig UP [1566, 1719, 1720, 1721]
APLOSEngine UP [1569, 1766, 1767, 1768]
APLOS UP [2062, 2234, 2235, 2236]
PlacementSolver UP [2065, 2314, 2315, 2318]
Lazan UP [2073, 2408, 2409, 2410]
Polaris UP [2079, 2426, 2427, 2633]
Delphi UP [2092, 2606, 2607, 2612]
Security UP [2110, 2630, 2631, 2632]
Flow UP [2121, 2619, 2620, 2624]
Anduril UP [2136, 2694, 2695, 2696]
XTrim UP [2147, 2828, 2829, 2830]
ClusterHealth UP [2166, 2773, 2968, 2969, 2972, 2982, 3086, 3087, 3091, 3095, 3096, 3135, 3136, 3141, 3142, 3145, 3149, 3155, 3156, 3160, 3305, 3306, 3321, 3323, 3324, 3328, 3330, 3331, 3563, 3565, 3567, 3568, 3569, 3570, 3571, 3572, 3573, 3574, 3575, 3576, 3578, 3582, 3668, 3673]
2024-06-13 05:53:48.449Z INFO MainThread cluster:3104 Success!
nutanix@NTNX- A-CVM:10.28.17.161: $
```

4.6 Prism Element へのログイン

Nutanix クラスターの起動が完了したら、Nutanix の Web 管理画面である Prism Element にログインします。

Prism Element へのログインに必要な情報は以下の通りです。

Prism Element ログイン情報

IP アドレス	「Foundation 作業依頼書」にご記入いただいたクラスター仮想 IP アドレス ※クラスター仮想 IP アドレスをご記入いただいていない場合は、いずれか 1 ノードの CVM IP アドレスにアクセスしてください
ユーザー名	admin
パスワード	「Foundation 作業依頼書」にご記入いただいた admin ユーザーのパスワード

以下の手順にて Prism Element にアクセスします。

1. 操作端末の Web ブラウザから以下の URL にアクセスします。

https://IP アドレス:9440/

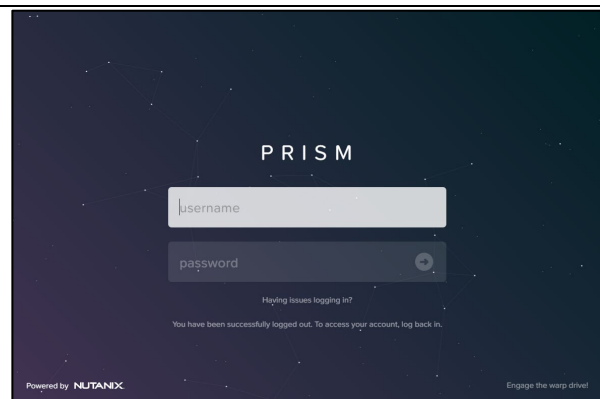
もしくは

http://IP アドレス/

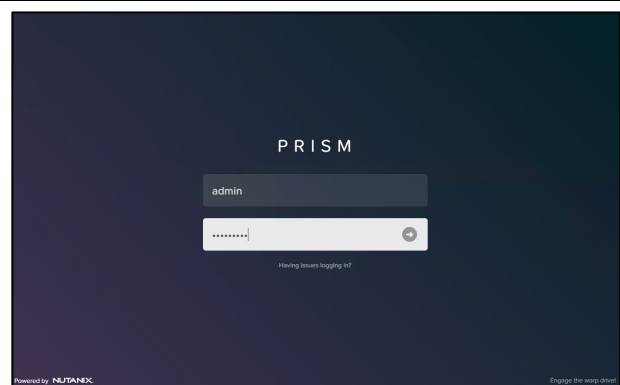
※自動で https の 9440 番ポートにリダイレクトされます

プライバシーエラーが表示された場合は続行します。

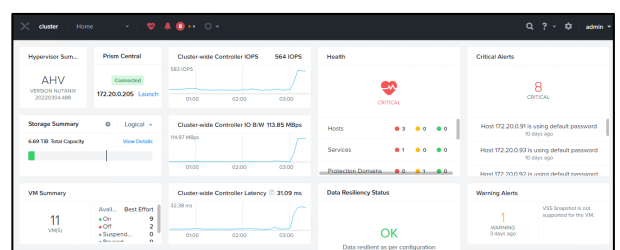
右のログイン画面が表示されます。



2. admin ユーザーとパスワードを入力し、Enter キーまたは「→」ボタンをクリックします。



3. Prism Element の画面が表示されます。



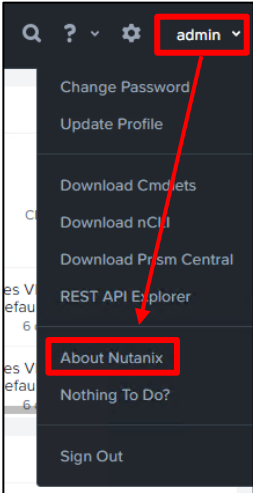
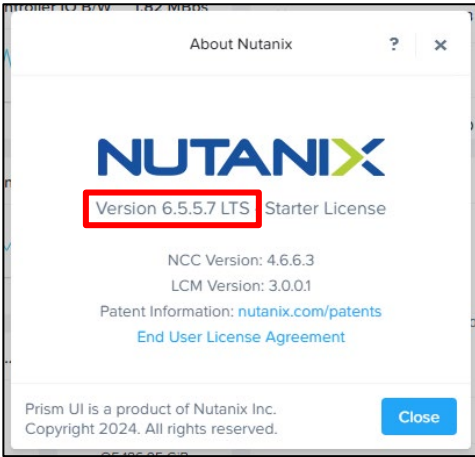
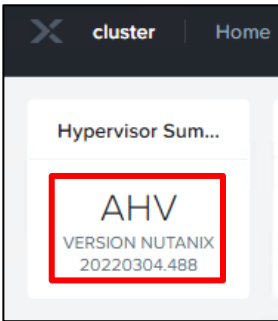
以上で Nutanix の起動は完了です。

5. 設定内容の確認

ここでは設定内容の確認作業を実施します。お手元に「Foundation 作業依頼書」をご用意ください。
前章までの手順にて Nutanix クラスターが起動し、Prism Element、CVM にログインできる状態である必要があります。

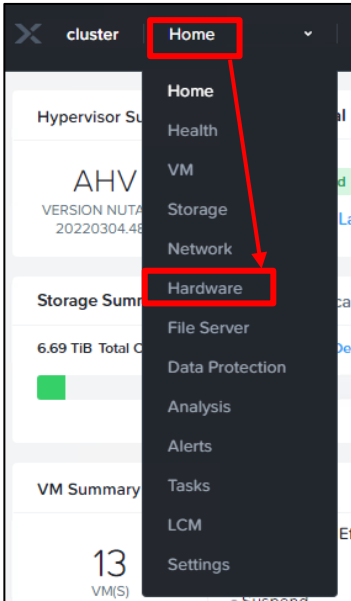
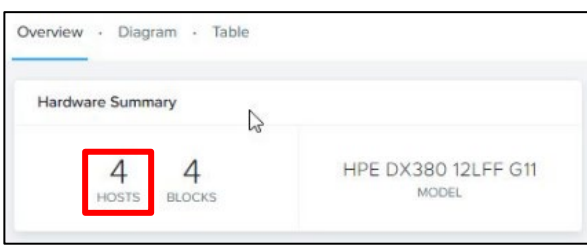
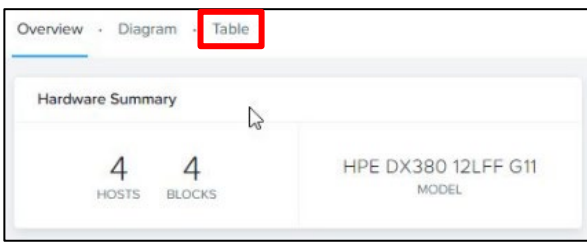
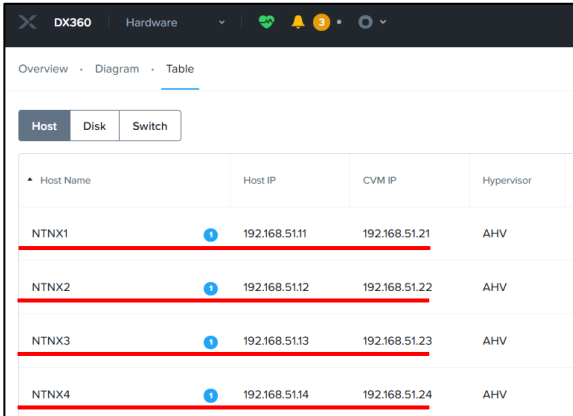
5.1 AOS バージョンの確認

以下の手順にて AOS のバージョンを確認します。

1. Prism Element に admin ユーザーでログイン後、画面右上の「admin」をクリックし、「About Nutanix」をクリックします。	
2. 表示された Version 番号をご確認いただき、「Foundation 作業依頼書」の「AOS のバージョン」と相違が無いことをご確認ください。	
3. 弊社 Foundation 作業では、AOS にバンドルされたハイパーバイザー(AHV)をインストールしております。AHV のバージョンは Prism Element ログイン直後のページの「Hypervisor Summary」にてご確認ください。	

5.2 ノード数・ノードの IP アドレスの確認

以下の手順にてノード数と各ノードに設定されている IP アドレスを確認します。

1. Prism Element に admin ユーザーでログイン後、画面上の「Home」をクリックし、「Hardware」をクリックします。																					
2. ハードウェアの概要が表示されます。 「Hardware Summary」欄の HOSTS(ホスト数)に表示されたノード数が実際のノード数と一致していることをご確認ください。																					
3. 引き続きノードに設定されている IP アドレスの確認作業を実施します。 「Table」をクリックします。																					
4. ノードに設定されたホスト名、ハイパーバイザー IP アドレス、CVM の IP アドレスが表示されます。 「Foundation 作業依頼書」にご記入いただいたホスト名、IP アドレスと相違が無いことをご確認ください。	 <table><tr><th>Host Name</th><th>Host IP</th><th>CVM IP</th><th>Hypervisor</th></tr><tr><td>NTNX1</td><td>192.168.51.11</td><td>192.168.51.21</td><td>AHV</td></tr><tr><td>NTNX2</td><td>192.168.51.12</td><td>192.168.51.22</td><td>AHV</td></tr><tr><td>NTNX3</td><td>192.168.51.13</td><td>192.168.51.23</td><td>AHV</td></tr><tr><td>NTNX4</td><td>192.168.51.14</td><td>192.168.51.24</td><td>AHV</td></tr></table>	Host Name	Host IP	CVM IP	Hypervisor	NTNX1	192.168.51.11	192.168.51.21	AHV	NTNX2	192.168.51.12	192.168.51.22	AHV	NTNX3	192.168.51.13	192.168.51.23	AHV	NTNX4	192.168.51.14	192.168.51.24	AHV
Host Name	Host IP	CVM IP	Hypervisor																		
NTNX1	192.168.51.11	192.168.51.21	AHV																		
NTNX2	192.168.51.12	192.168.51.22	AHV																		
NTNX3	192.168.51.13	192.168.51.23	AHV																		
NTNX4	192.168.51.14	192.168.51.24	AHV																		

5. 各ノードをクリックすると、画面下部にて各ノードの iLO IP アドレスやディスク構成、メモリ容量、CPU モデルなどがご確認いただけます。

IPMI IP : iLO の IP アドレス

Node Serial : ProLiant DX のシリアル番号

Block Serial : Node Serial と同じ

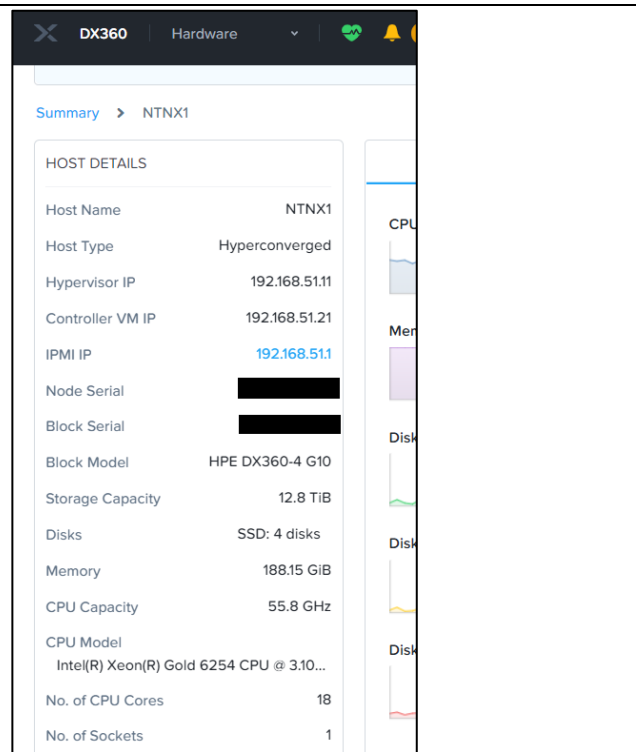
Disks : ディスク構成

Memory : メモリ容量

CPU Model : CPU モデル

No. of CPU Cores : CPU コア数

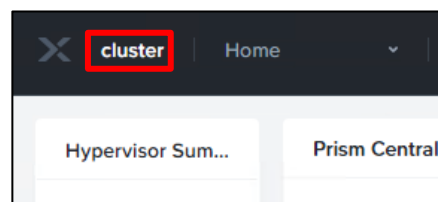
No. of CPU Sockets : CPU 数



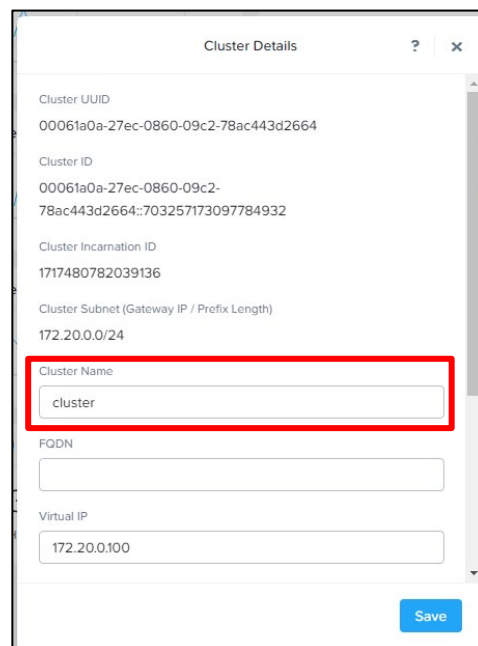
5.3 クラスター名とクラスター仮想 IP アドレスの確認

以下の手順にて Nutanix クラスター名とクラスター仮想 IP アドレスを確認します。

1. Prism Element に admin ユーザーでログイン後、画面左上の X マークの右の文字列 (クラスター名) をクリックします。

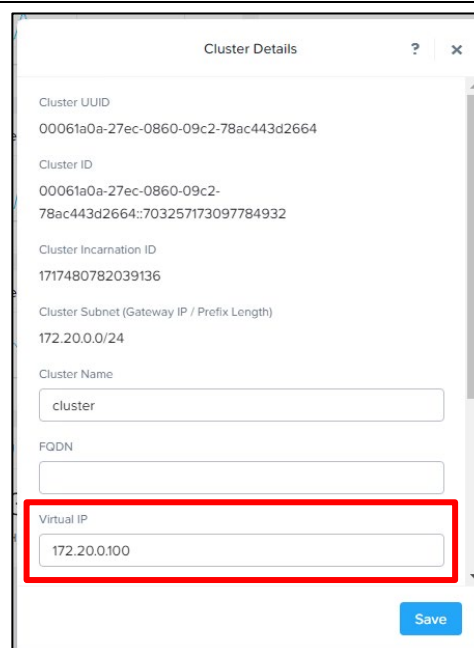


2. クラスター詳細ウィンドウが表示されます。
- 「Cluster Name」欄にクラスター名が表示されます。
- 「Foundation 作業依頼書」にご記入いただいたクラスター名と相違が無いことをご確認ください。



3. 引き続き「Virtual IP」欄を確認します。
「Foundation 作業依頼書」にご記入いただいたクラスター仮想 IP アドレスと相違が無いことをご確認ください。

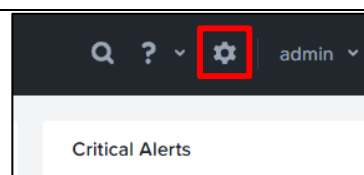
なお、クラスター仮想 IP アドレスの設定は必須ではありません。



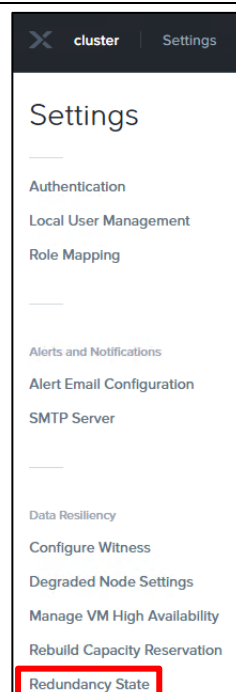
5.4 Redundancy Factor の確認

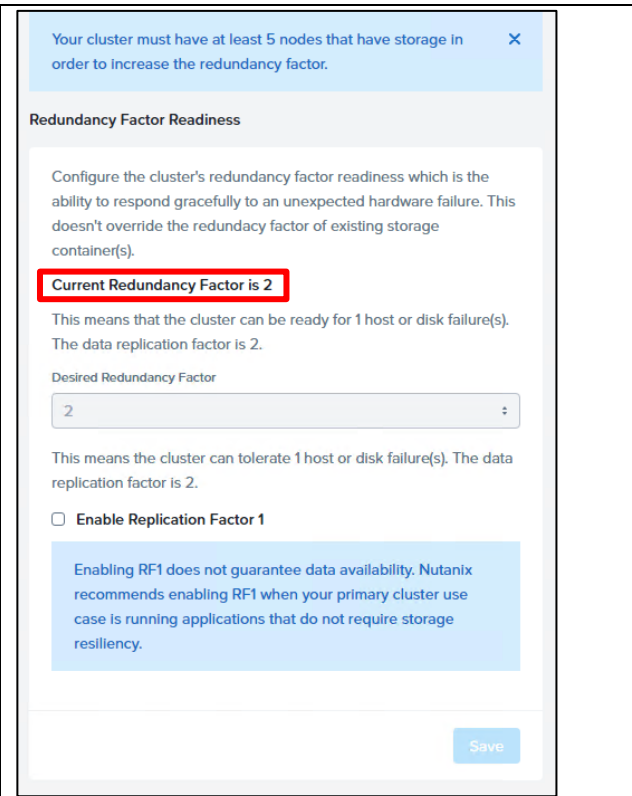
以下の手順にて Redundancy Factor を確認します。

1. Prism Element に admin ユーザーでログイン後、画面右上の歯車アイコンをクリックします。



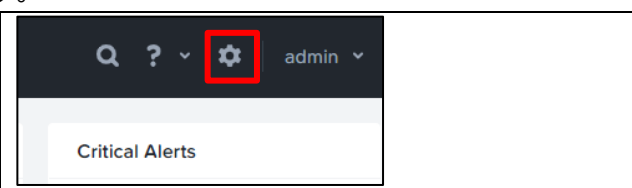
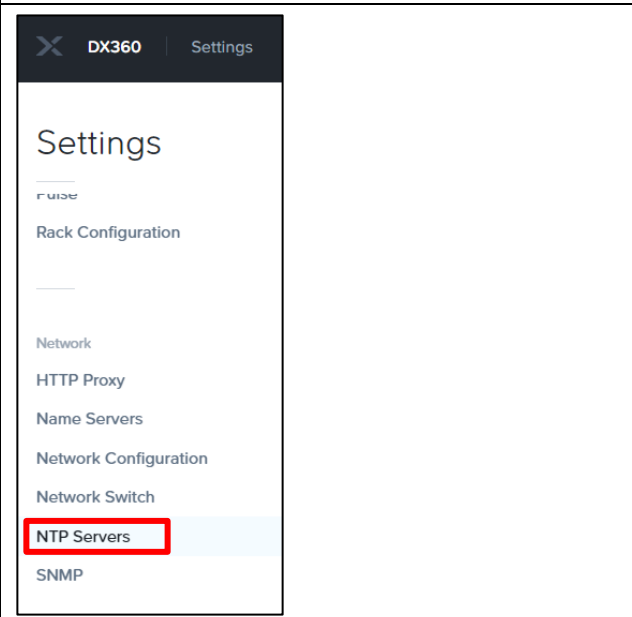
2. 「Settings」画面が表示されます。
「Data Resiliency」カテゴリーにある「Redundancy State」をクリックします。

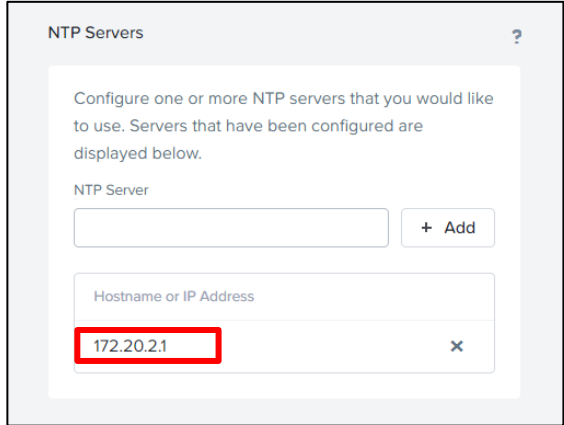
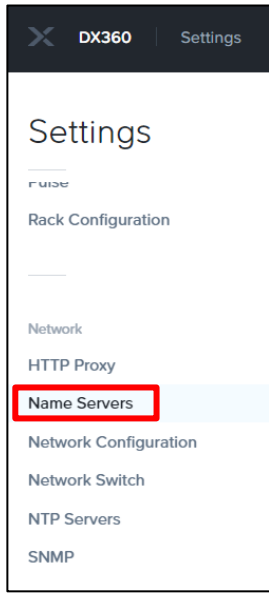


3. 「Current Redundancy Factor」として現在の Redundancy Factor が表示されます。 「Foundation 作業依頼書」にご記入いただいた Redundancy Factor と相違が無いことをご確認ください。 なお、Redundancy Factor に 3 を設定するには、5 ノード以上が必要です。	
---	--

5.5 NTP、DNS サーバーの確認

以下の手順にて NTP、DNS サーバーの設定を確認します。

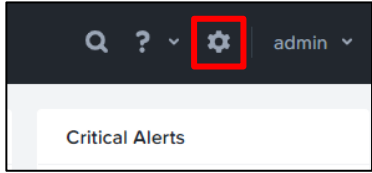
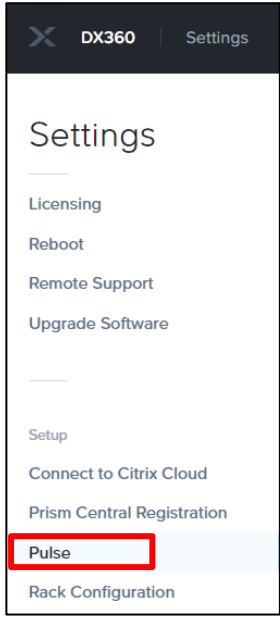
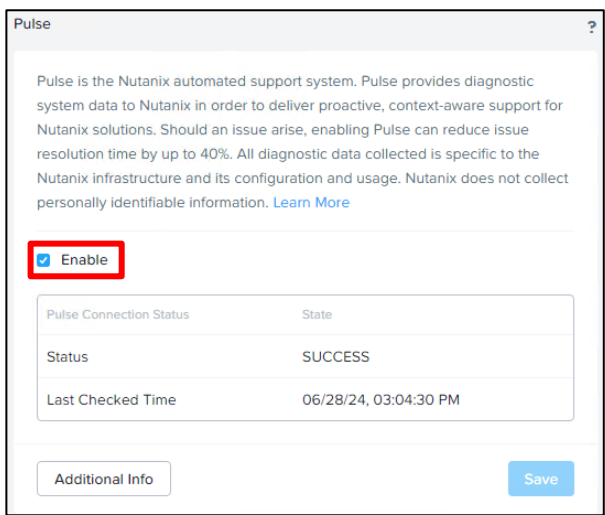
1. Prism Element に admin ユーザーでログイン後、画面右上の歯車アイコンをクリックします。	
2. 「Settings」画面が表示されます。 「Network」カテゴリーにある「NTP Servers」をクリックします。	

3. 設定されている参照先 NTP サーバーが表示されます。 「Foundation 作業依頼書」にご記入いただいた NTP サーバーと相違が無いことをご確認ください。 ※右画像は設定例です	
4. 引き続き DNS 設定を確認します。 「Network」カテゴリにある「Name Servers」をクリックします。	
5. 設定されている参照先 DNS サーバーが表示されます。 「Foundation 作業依頼書」にご記入いただいた DNS サーバーと相違が無いことをご確認ください。 ※右画像は設定例です	

5.6 Pulse 設定値の確認

Pulse は、Nutanix が提供している診断機能の一つであり、Nutanix クラスターの構成情報、診断情報を定期的に収集し Nutanix に送信します。

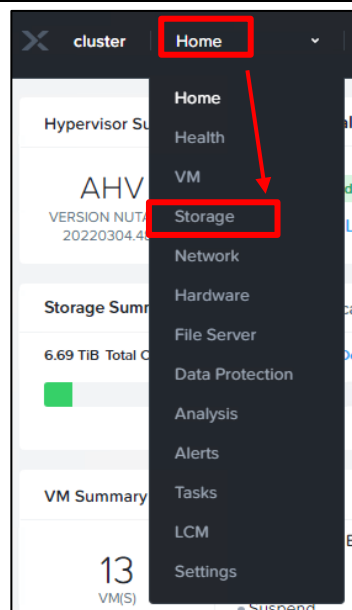
以下の手順にて Pulse の設定値を確認します。

1. Prism Element に admin ユーザーでログイン後、画面右上の歯車アイコンをクリックします。							
2. 「Settings」画面が表示されます。 「Setup」カテゴリーにある「Pulse」をクリックします。							
3. Pulse の有効/無効が表示されます。 「Enable」にチェックが入っている場合は、Pulse が有効になっています。 「Foundation 作業依頼書」にご記入いただいた Pulse の設定値と相違が無いことをご確認ください。	 <table border="1"><thead><tr><th>Pulse Connection Status</th><th>State</th></tr></thead><tbody><tr><td>Status</td><td>SUCCESS</td></tr><tr><td>Last Checked Time</td><td>06/28/24, 03:04:30 PM</td></tr></tbody></table>	Pulse Connection Status	State	Status	SUCCESS	Last Checked Time	06/28/24, 03:04:30 PM
Pulse Connection Status	State						
Status	SUCCESS						
Last Checked Time	06/28/24, 03:04:30 PM						

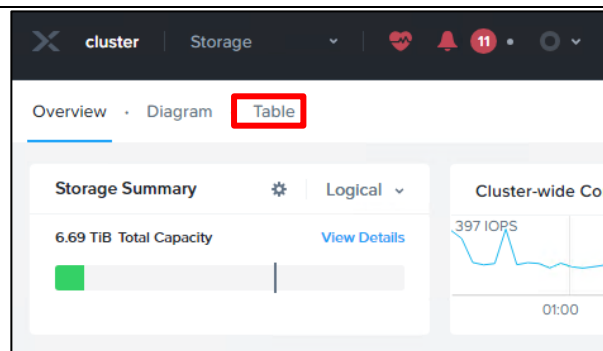
5.7 ストレージコンテナの確認

以下の手順にてストレージコンテナの状態を確認します。

1. Prism Element に admin ユーザーでログイン後、画面上の「Home」をクリックし、「Storage」をクリックします。

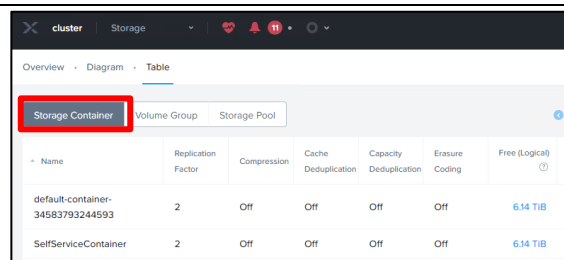


2. ストレージの概要が表示されます。「Table」をクリックします。

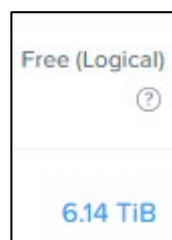
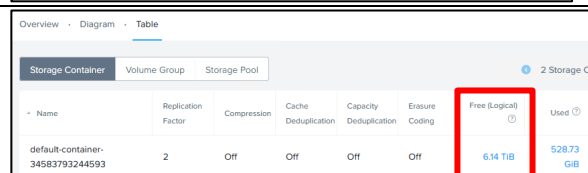


3. 「Storage Container」を選択します。

「default-container-xxxxxxx」が表示されていることを確認します。



4. 「default-container-xxxxxxx」の「Free(Logical)」列の値が、実際に利用可能なストレージ容量です。※右画像は例です



5. 画面右の「Update」をクリック、「Advanced Settings」にて、コンテナの詳細設定の確認・設定が可能です。

Max Capacity ?	Controller IOPS	Controller IO B/W	Controller IO Latency
6.65 TiB	157	1.56 MBps	1.02 ms
6.14 TiB	0	0 KBps	0 ms
Update Delete			

Update Storage Container

?

×

Name

default-container-34583793244593

Storage Pool

default-storage-pool-34583793244593

Max Capacity

6.65 TiB

⚙️ Advanced Settings

Cancel

Save

6. Prism Central のデプロイ・設定

ここでは Prism Central のデプロイ、登録、停止、起動作業を実施します。

※以下のバージョンの Prism Central を使用して本手順書を作成しております。Prism Central のバージョンによっては、設定画面が変更されている可能性がありますので、ご注意ください。

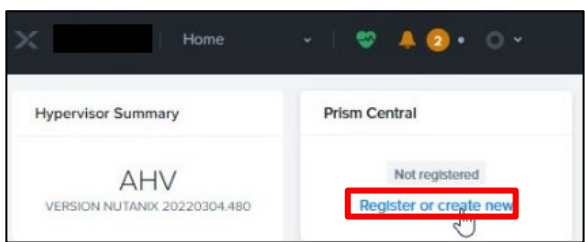
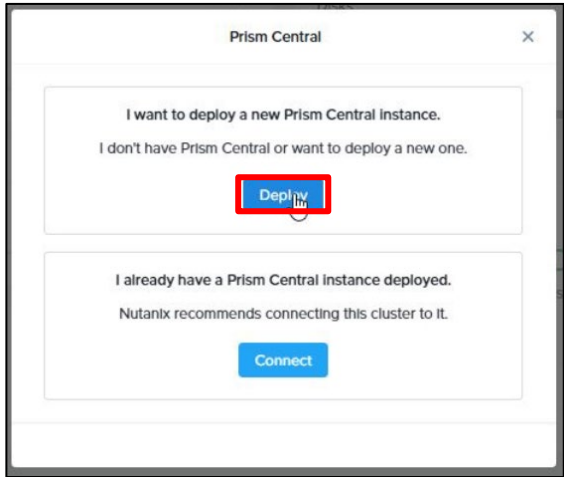
Prism Central	pc.2022.6.0.5
---------------	---------------

※Prism Central のデプロイは単一 VM を想定しています。

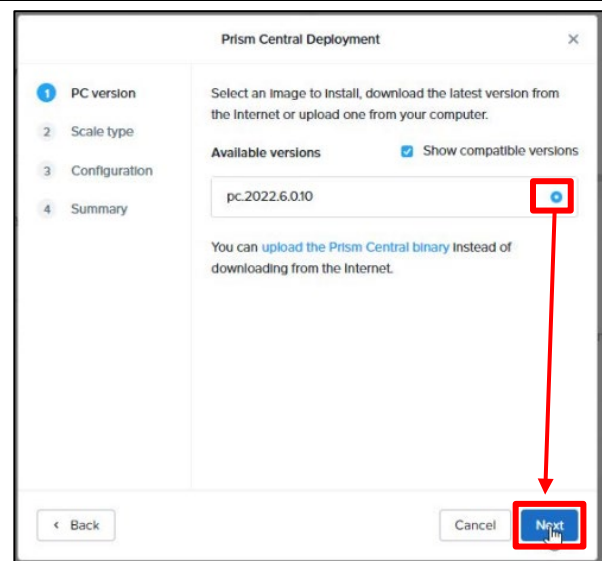
※Prism Central のインストールバイナリは、クラスターがインターネット接続されていない場合、インターネット接続可能な PC でダウンロードした後、アップロードする必要があります。

6.1 Prism Central のデプロイ

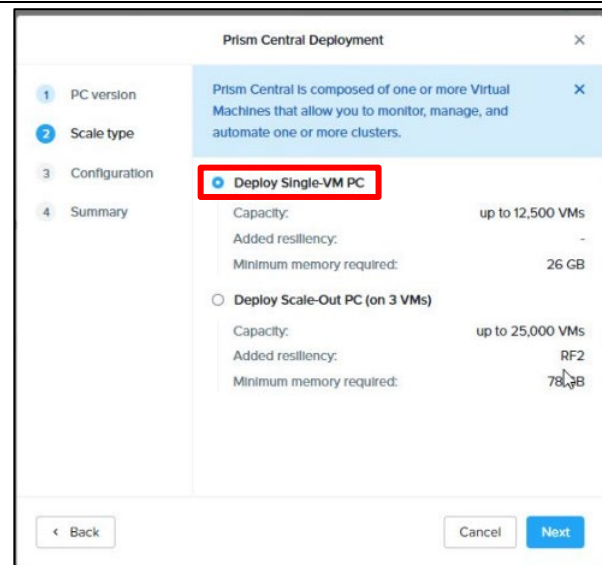
以下の手順にて Prism Central をデプロイします。

1. Prism Element 上の Prism Central ウィジェットから「Register or create new」をクリックします。	
2. 新規の Prism Central を作成するために、「Deploy」をクリックします。	

3. ダウンロード・インストールするバージョンにチェックを入れ、「Next」をクリックします。



4. 今回は Single-VM(単一 VM)の Prism Central をデプロイするため、「Deploy Single-VM PC」を選択し、「Next」をクリックします。
スケールアウトのために 3 台の Prism Central をデプロイする場合は、「Deploy Scale-Out (on 3 VMs)」をクリックしてください。



5. 以下の指定されたフィールドを入力します。

PC size : Prism Central VM のサイズ (管理する仮想マシンの数に応じたサイズを選択してください)

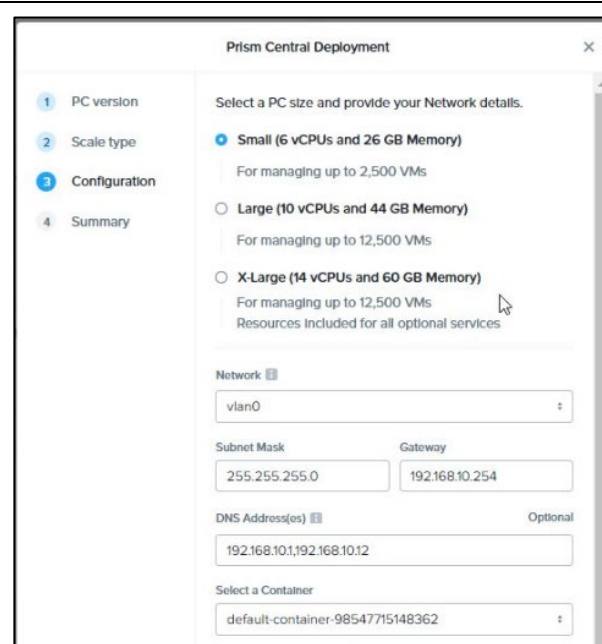
Network : Prism Central VM を配置するターゲットネットワーク

Subnet Mask : サブネットマスク

Gateway: デフォルトゲートウェイ

DNS Address (optional) : 1 つまたは複数の DNS サーバーの IP アドレス

Select a Container : Prism Central VM を配置するコンテナ



6. 下にスクロールし、引き続き以下の指定されたフィールドを入力します。

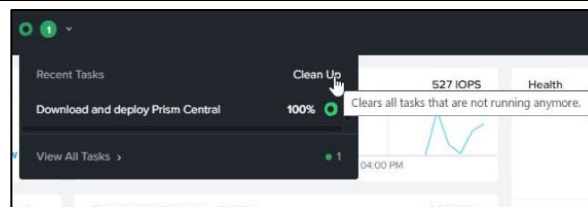
VM Name : Prism Central VM の名前

IP : Prism Central VM の IP アドレス

入力後、「Next」ボタンをクリックします。

7. 確認画面が表示されます。「Deploy」をクリックすると、デプロイが開始されます。

8. 画面上部のタスクの「Download and deploy Prism Central」が 100%になると、デプロイは完了です。



9. 操作端末の Web ブラウザから以下の URL にアクセスします。

<https://Prism Central の IP アドレス:9440/>

もしくは

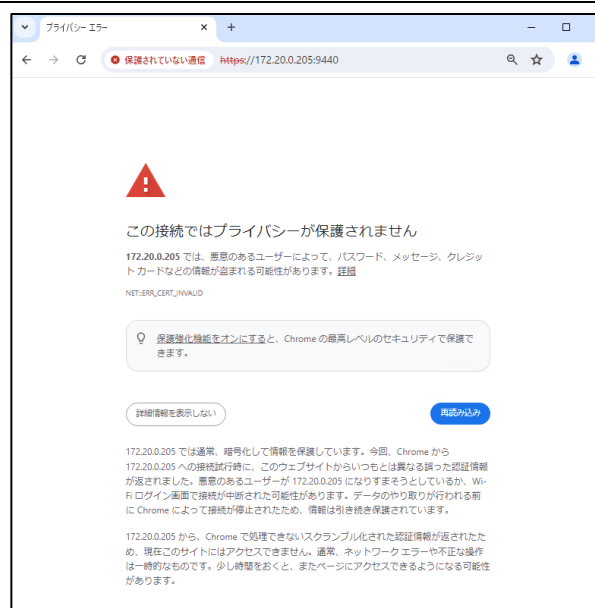
<http://Prism Central の IP アドレス/>

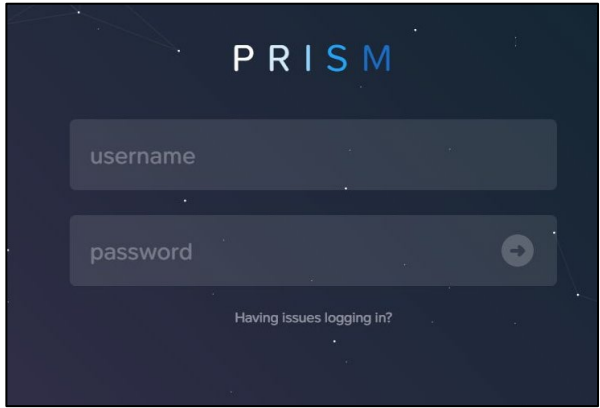
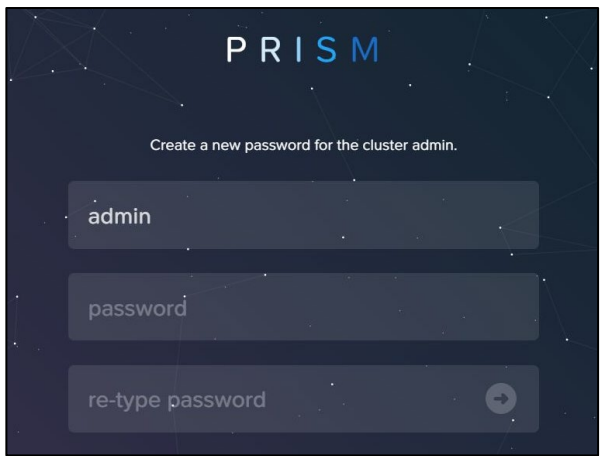
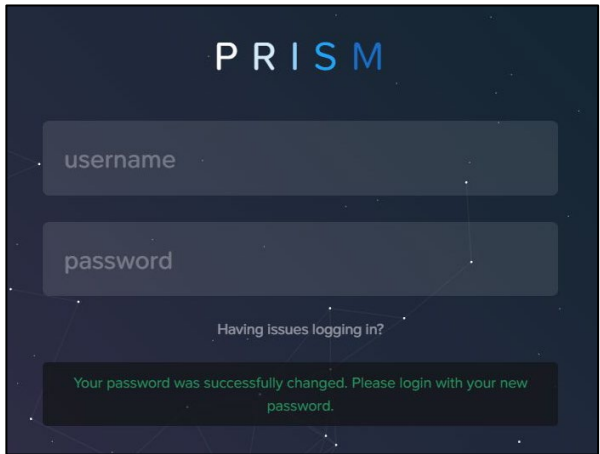
※自動で https の 9440 番ポートにリダイレクトされます

Google Chrome ご利用時に「この接続ではプライバシーが保護されません」という画面が表示された場合はそのまま、画面上で

thisisunsafe

とキーボードから入力して下さい。ログイン画面に遷



移します。これは Google Chrome のセキュリティ強化に伴う仕様です。	
10. ログイン画面が表示されたら、admin ユーザーと初期パスワード Nutanix/4u を入力し、Enter キーまたは「→」ボタンをクリックします。 ※パスワードの1文字目は大文字の N です	 The image shows the PRISM login interface. At the top, the word 'PRISM' is displayed in a stylized font. Below it are two input fields: 'username' and 'password'. The 'password' field has a right-pointing arrow button. At the bottom, there is a link that says 'Having issues logging in?'.
11. 新しいパスワードを設定します。	 The image shows the PRISM password creation interface. At the top, the word 'PRISM' is displayed. Below it, the text 'Create a new password for the cluster admin.' is shown. There are three input fields: 'admin', 'password', and 're-type password'. The 're-type password' field has a right-pointing arrow button.
12. admin ユーザーと新規パスワードを入力し、Enter キーをクリックします。	 The image shows the PRISM login interface, similar to the first screenshot. It has 'username' and 'password' input fields and a 'Having issues logging in?' link. At the bottom, there is a green message box that says: 'Your password was successfully changed. Please login with your new password.'

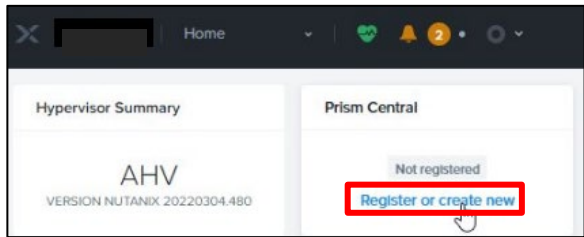
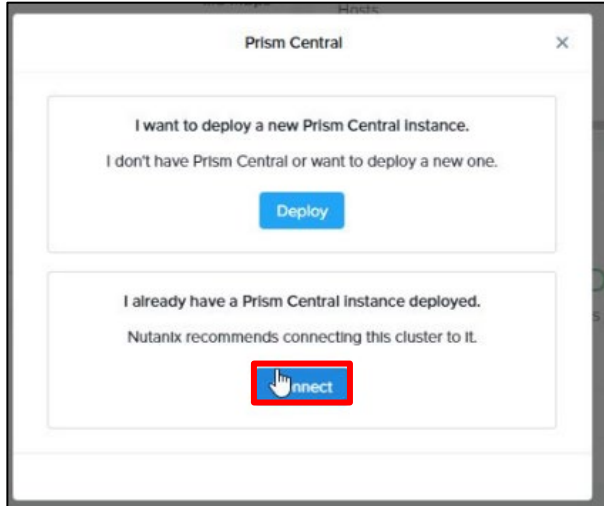
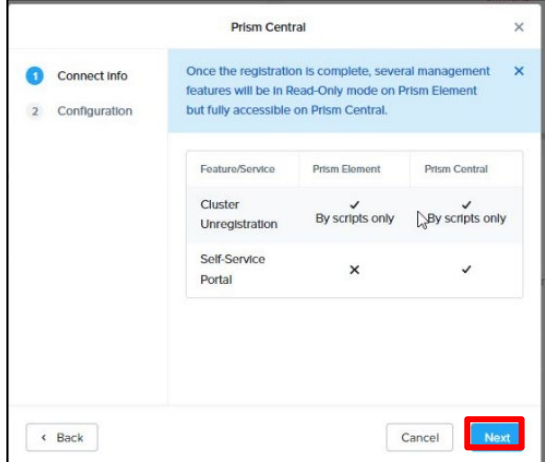
13. EULA 画面で「Name」、「Company」、「Job Title」を入力し、「I have read and agree to the terms and conditions.」にチェックを入れ、「Accept」ボタンをクリックします。

14. Prism Central にて通知設定 Pulse を有効にする場合は、チェックボタンを外したまま、「Continue」ボタンをクリックします。

15. Prism Central の画面が表示されます。

6.2 クラスターの登録

以下の手順にて Nutanix クラスターを Prism Central に登録します。

1. Prism Element に戻り、画面上の Prism Central ウィジェットから「Register or create new」をクリックします。													
2. 作成した Prism Central に接続するために、「Connect」をクリックします。													
3. Prism Central で利用できるサービスの概要が表示されます。確認後、「Next」をクリックします。	 <table data-bbox="978 1229 1331 1375"><tr><th>Feature/Service</th><th>Prism Element</th><th>Prism Central</th></tr><tr><td>Cluster</td><td>✓</td><td>✓</td></tr><tr><td>Unregistration</td><td>By scripts only</td><td>By scripts only</td></tr><tr><td>Self-Service Portal</td><td>✗</td><td>✓</td></tr></table>	Feature/Service	Prism Element	Prism Central	Cluster	✓	✓	Unregistration	By scripts only	By scripts only	Self-Service Portal	✗	✓
Feature/Service	Prism Element	Prism Central											
Cluster	✓	✓											
Unregistration	By scripts only	By scripts only											
Self-Service Portal	✗	✓											

4. 以下の指定されたフィールドに Prism Central の情報を入力します。

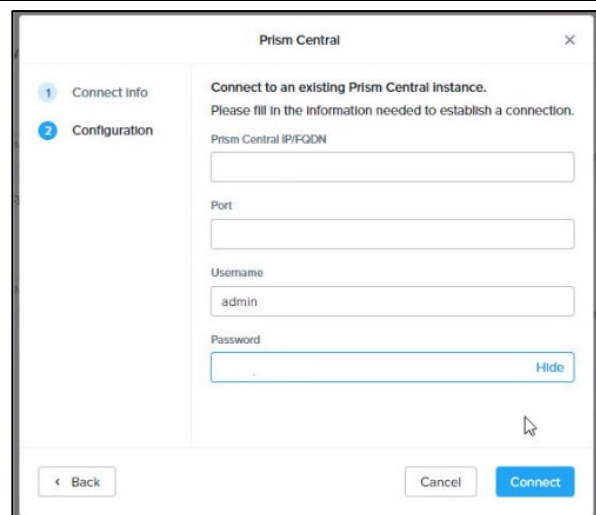
Prism Central IP/FQDN : Prism Central の IP アドレスまたは FQDN

Port : 空欄で結構です

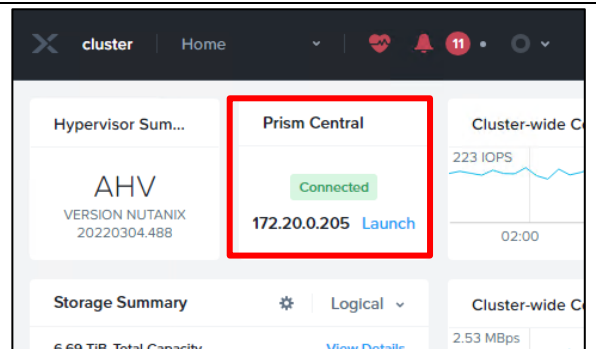
Username: Prism Central のユーザー名(admin)

Password : Prism Central の admin ユーザーのパスワード

入力後、「Connect」ボタンをクリックします。

A screenshot of a 'Prism Central' configuration window. It has two tabs: 'Connect info' (selected) and 'Configuration'. The 'Connect info' tab contains fields for 'Prism Central IP/FQDN', 'Port', 'Username' (pre-filled with 'admin'), and 'Password' (with a 'Hide' button). At the bottom are 'Back', 'Cancel', and 'Connect' buttons. The window title is 'Prism Central' with a close button (X) in the top right corner.

5. 正常に接続できた場合、Prism Element の Prism Central ウィジェットで「OK」が表示されます。
「Launch」をクリックすると、Prism Central の画面が開きます。



6.3 Prism Central への SSH ログイン

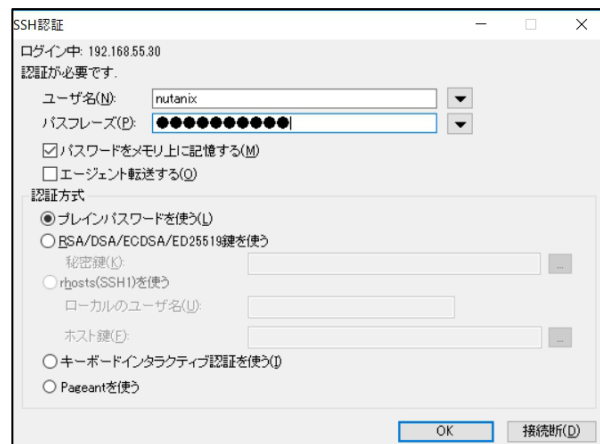
Prism Central に操作端末から SSH で接続し、Prism Central を停止、起動させることができます。
Prism Central へのログインに必要な情報は以下の通りです。

Prism Central SSH ログイン情報

IP アドレス	Prism Central を作成した際に指定した IP アドレス
ユーザー名	Nutanix
パスワード	nutanix/4u

以下の手順で SSH クライアントから Prism Central にログインできます。

1. TeraTerm などの SSH クライアントから Prism Central VM に接続します。

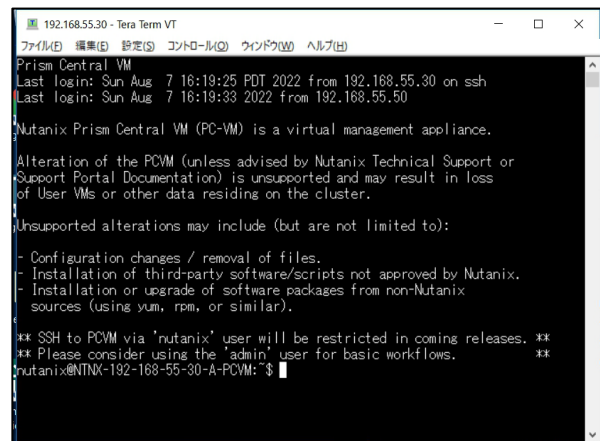


2. ログインに成功すると、以下のコマンドプロンプトが表示されます。

```
nutanix@PCVM ホスト名:IP アドレス:$
```

正常に接続できない場合は、ネットワーク接続などをご確認ください。

exit コマンドでログアウトできます。

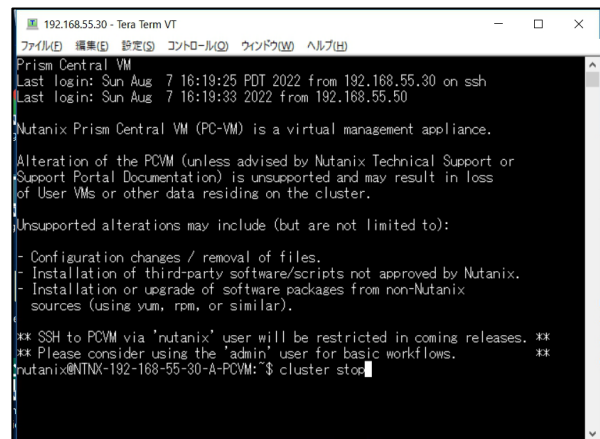


6.4 Prism Central の停止

クラスターを停止させる際などに、Prism Central を停止させるには以下の手順を実行してください。

1. Prism Central に SSH でログインし、以下のコマンドを実行します。

2. `$ cluster stop`



```
192.168.55.30 - Tera Term VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(C) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
Prism Central VM
Last login: Sun Aug 7 16:19:25 PDT 2022 from 192.168.55.30 on ssh
Last login: Sun Aug 7 16:19:33 2022 from 192.168.55.50

Nutanix Prism Central VM (PC-VM) is a virtual management appliance.

Alteration of the PCVM (unless advised by Nutanix Technical Support or
Support Portal Documentation) is unsupported and may result in loss
of User VMs or other data residing on the cluster.

Unsupported alterations may include (but are not limited to):

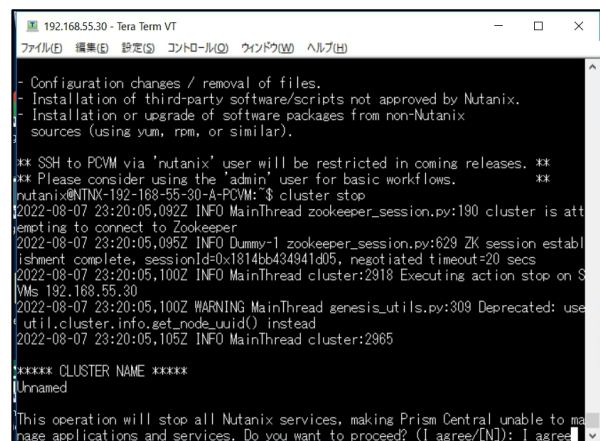
- Configuration changes / removal of files.
- Installation of third-party software/scripts not approved by Nutanix.
- Installation or upgrade of software packages from non-Nutanix
  sources (using yum, rpm, or similar).

** SSH to PCVM via 'nutanix' user will be restricted in coming releases. **
** Please consider using the 'admin' user for basic workflows.          **
nutanix@NTNX-192-168-55-30-A-PCVM:~$ cluster stop
```

2. Prism Central サービスを停止してもよいか確認が入ります。
停止する場合は、「I agree」と入力し、Enter キーを押します。

This operation will stop the Nutanix services, making Prism Central unable to manage applications and services. Do you want to proceed? (I agree/[N]): **I agree**

入力後、Prism Central サービスが停止するまでしばらく待ちます。



```
192.168.55.30 - Tera Term VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(C) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

- Configuration changes / removal of files.
- Installation of third-party software/scripts not approved by Nutanix.
- Installation or upgrade of software packages from non-Nutanix
  sources (using yum, rpm, or similar).

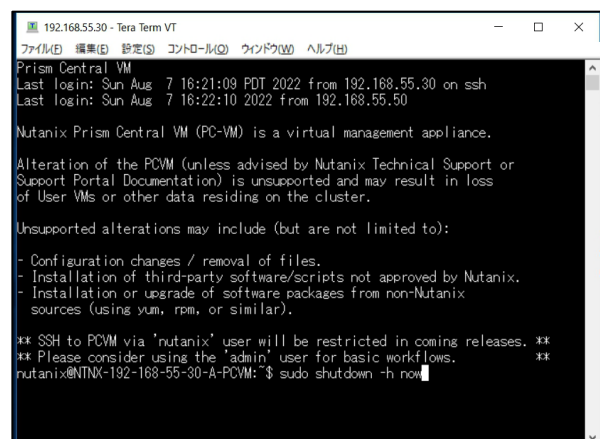
** SSH to PCVM via 'nutanix' user will be restricted in coming releases. **
** Please consider using the 'admin' user for basic workflows.          **
nutanix@NTNX-192-168-55-30-A-PCVM:~$ cluster stop
2022-08-07 23:20:05,092Z INFO MainThread zookeeper_session.py:190 cluster is attempting to connect to Zookeeper
2022-08-07 23:20:05,095Z INFO Dummy-1 zookeeper_session.py:629 ZK session establishment complete, sessionId=0x1814bb434941d05, negotiated timeout=20 secs
2022-08-07 23:20:05,100Z INFO MainThread cluster:2918 Executing action stop on S
VMs 192.168.55.30
2022-08-07 23:20:05,100Z WARNING MainThread genesis_utils.py:309 Deprecated: use util.cluster.info.get_node_uuid() instead
2022-08-07 23:20:05,105Z INFO MainThread cluster:2965

***** CLUSTER NAME *****
[Unamed]

This operation will stop all Nutanix services, making Prism Central unable to manage applications and services. Do you want to proceed? (I agree/[N]): I agree
```

3. 続いて、Prism Central VM をシャットダウンするために、以下のコマンドを実行します。

`$ sudo shutdown -h now`



```
192.168.55.30 - Tera Term VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(C) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
Prism Central VM
Last login: Sun Aug 7 16:21:09 PDT 2022 from 192.168.55.30 on ssh
Last login: Sun Aug 7 16:22:10 2022 from 192.168.55.50

Nutanix Prism Central VM (PC-VM) is a virtual management appliance.

Alteration of the PCVM (unless advised by Nutanix Technical Support or
Support Portal Documentation) is unsupported and may result in loss
of User VMs or other data residing on the cluster.

Unsupported alterations may include (but are not limited to):

- Configuration changes / removal of files.
- Installation of third-party software/scripts not approved by Nutanix.
- Installation or upgrade of software packages from non-Nutanix
  sources (using yum, rpm, or similar).

** SSH to PCVM via 'nutanix' user will be restricted in coming releases. **
** Please consider using the 'admin' user for basic workflows.          **
nutanix@NTNX-192-168-55-30-A-PCVM:~$ sudo shutdown -h now
```

6.5 Prism Central の起動

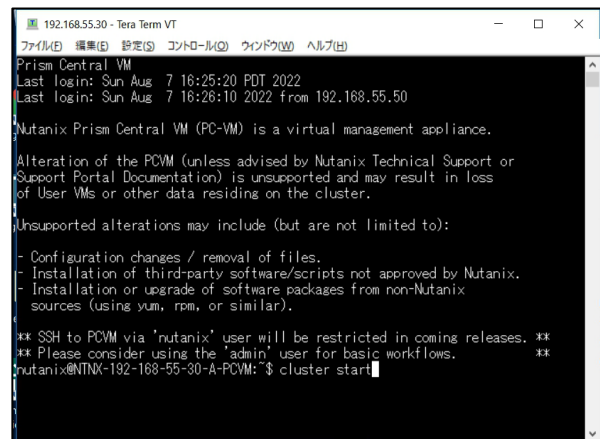
Prism Central を起動させる時は、以下の手順を実行してください。

1. Prism Element の仮想マシン管理ページから、Prism Central VM を起動します。

Prism Central VM が起動したら、SSH でログインし、以下のコマンドを実行します。

```
$ cluster start
```

Prism Central サービスが起動するまでしばらく待ちます。

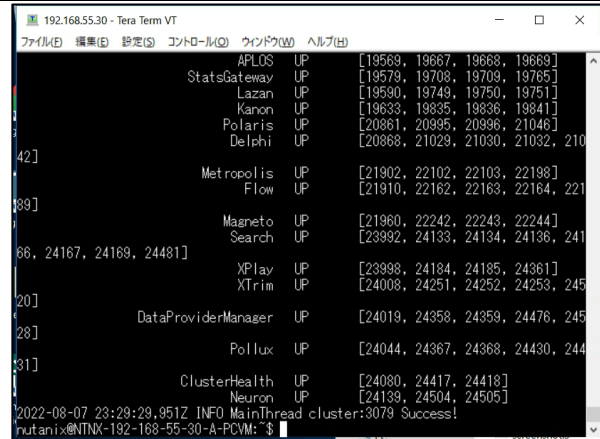


```
192.168.55.30 - Tera Term VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(C) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
Prism Central VM
Last login: Sun Aug 7 16:25:20 PDT 2022
Last login: Sun Aug 7 16:26:10 2022 from 192.168.55.50
Nutanix Prism Central VM (PC-VM) is a virtual management appliance.
Alteration of the PCVM (unless advised by Nutanix Technical Support or
Support Portal Documentation) is unsupported and may result in loss
of User VMs or other data residing on the cluster.
Unsupported alterations may include (but are not limited to):
- Configuration changes / removal of files.
- Installation of third-party software/scripts not approved by Nutanix.
- Installation or upgrade of software packages from non-Nutanix
sources (using yum, rpm, or similar).
** SSH to PCVM via 'nutanix' user will be restricted in coming releases. **
** Please consider using the 'admin' user for basic workflows. **
nutanix@NTNX-192-168-55-30-A-PCVM:~$ cluster start
```

2. Prism Central サービスの起動が完了すると以下のメッセージが表示されます。

```
INFO MainThread cluster:XXXXSuccess!
```

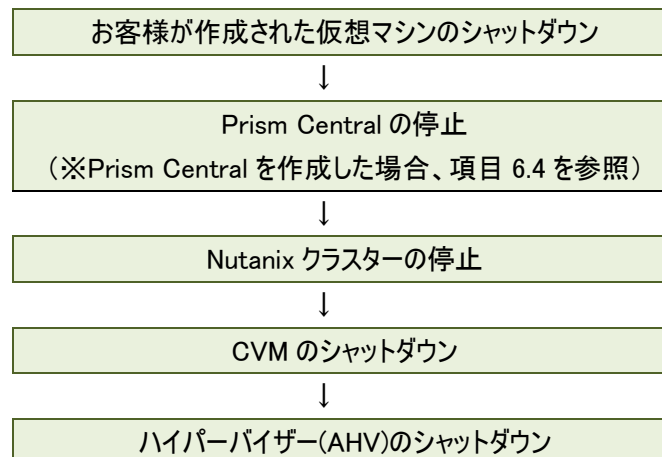
以上で Prism Central の起動は完了です。Prism Central の画面にアクセスできます。



```
192.168.55.30 - Tera Term VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(C) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
APLOS UP [19569, 19667, 19668, 19669]
StatsGateway UP [19579, 19708, 19709, 19785]
Lazan UP [19590, 19749, 19750, 19751]
Kanon UP [19633, 19835, 19836, 19841]
Polaris UP [20861, 20935, 20936, 21046]
Delphi UP [20868, 21029, 21030, 21032, 21033]
Metropolis UP [21902, 22102, 22103, 22198]
Flow UP [21910, 22162, 22163, 22164, 22165]
Magneto UP [21960, 22242, 22243, 22244]
Search UP [23992, 24133, 24134, 24136, 24137]
XPlay UP [23998, 24184, 24185, 24361]
XTrim UP [24008, 24251, 24252, 24253, 24254]
DataProviderManager UP [24019, 24358, 24359, 24476, 24477]
Pollux UP [24044, 24367, 24368, 24430, 24431]
ClusterHealth UP [24080, 24417, 24418]
Neuron UP [24139, 24504, 24505]
2022-08-07 23:29:29.951Z INFO MainThread cluster:3079 Success!
nutanix@NTNX-192-168-55-30-A-PCVM:~$
```

7. Nutanix の停止

機器のメンテナンスや法定停電時などに Nutanix を停止させる必要があるときは、以下の順序で停止・シャットダウンする必要があります。

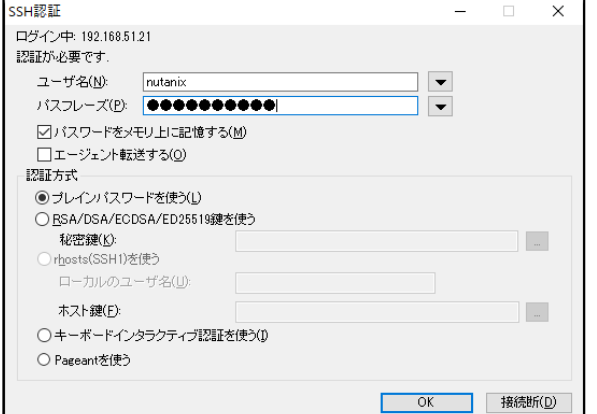
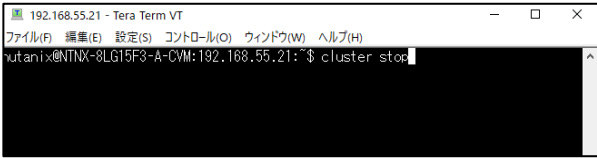


以下では、「お客様が作成された仮想マシンのシャットダウン」以降の手順について説明します。

7.1 Nutanix クラスターの停止

以下の手順にて Nutanix クラスターを停止します。

事前にお客様が作成された仮想マシンのシャットダウンを実施してください。

1. 任意の 1 台の CVM に nutanix ユーザーで SSH ログインします。	
2. クラスターを停止するには、以下のコマンドを実行します。 <code>\$ cluster stop</code>	

3. クラスターを停止してもよいか確認が入ります。
停止する場合は、「I agree」と入力し、Enter キーを押します。

This operation will stop the Nutanix storage services and any VMs using Nutanix storage will become unavailable. Do you want to proceed? (I agree/[N]): **I agree**

入力後、クラスターが停止するまでしばらく待ちます。

※本手順は 1 台の CVM からのみ実行します

7.2 CVM のシャットダウン

Nutanix クラスターを停止させたら、次は以下の手順にてすべての CVM を順番にシャットダウンします。

1. CVM から以下のコマンドを実行します。

```
$ sudo shutdown -P now
```

※本手順はすべての CVM に対して実行します

7.3 ハイパーバイザー(AHV)のシャットダウン

CVM を停止させたら、次は以下の手順にてすべてのハイパーバイザー(AHV)を順番にシャットダウンします。

1. ハイパーバイザー(AHV)に root ユーザーで SSH ログインします。

2. 以下のコマンドで CVM が停止しているか確認します。

```
# virsh list --all | grep CVM
```

CVM が「shut off」になっていれば CVM のシャットダウンが完了しています。

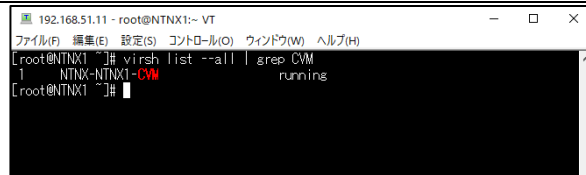
```
1 CVM ホスト名      shut off
```

↑ CVM のシャットダウンが完了しています

「running」の場合は、CVM のシャットダウン中です。しばらく待った後、再度 virsh コマンドを実行して CVM がシャットダウンされたか確認してください。

```
1 CVM ホスト名      running
```

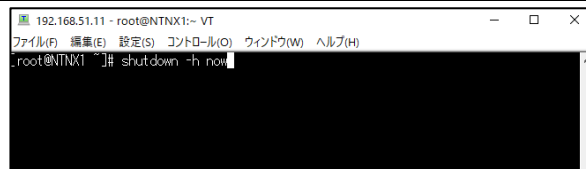
↑ CVM のシャットダウンが完了していません



```
192.168.51.11 - root@NTNX1:~ VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
[root@NTNX1 ~]# virsh list --all | grep CVM
1 NTNX-NTNX1-CVM running
[root@NTNX1 ~]#
```

3. CVM が「shut off」状態になったことを確認したら、以下のコマンドでハイパーバイザー(AHV)をシャットダウンします。

```
# shutdown -h now
```



```
192.168.51.11 - root@NTNX1:~ VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
[root@NTNX1 ~]# shutdown -h now
```

4. サーバーがシャットダウンされ、電源ボタンがオレンジ色に点灯していることを確認します。

サーバーに接続された電源ケーブルを安全に取り外せます。

※本手順はすべての AHV に対して実行します



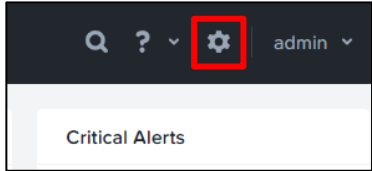
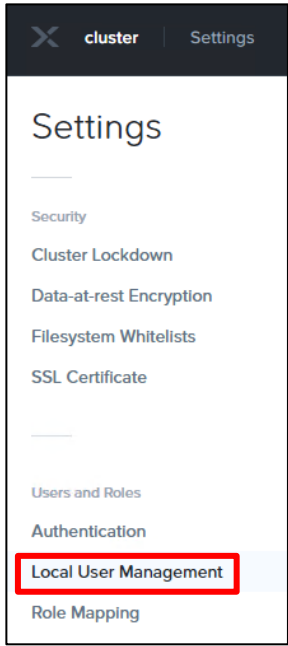
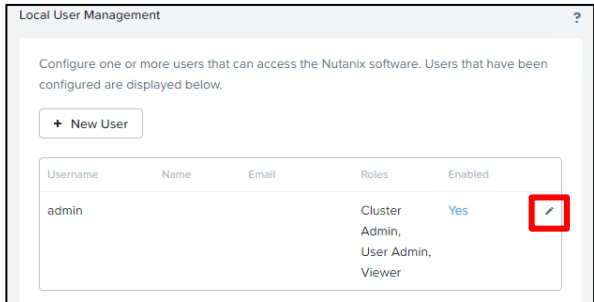
以上が Nutanix の停止手順となります。

再度 Nutanix を起動するときは本資料の「Nutanix の起動」の手順を実施してください。

8. 参考情報

8.1 Prism Element の日本語化

Prism Element の言語設定を日本語に変更することが可能です。

1. Prism Element に admin ユーザーでログイン後、画面右上の歯車アイコンをクリックします。	
2. 「Local User Management」をクリックします。	
3. admin ユーザー行の鉛筆マークをクリックします。	

- 「First Name」、「Last Name」、「Email」を入力します。
「Language」は「ja_JP」を選択し、「Save」をクリックします。

Update User

Please edit the attributes for this user as desired. Please note that the Username is the name used to sign into the Nutanix console.

Username
admin

First Name
user

Last Name
name

Email
xxx@xxxx.xxx

Language
ja-JP

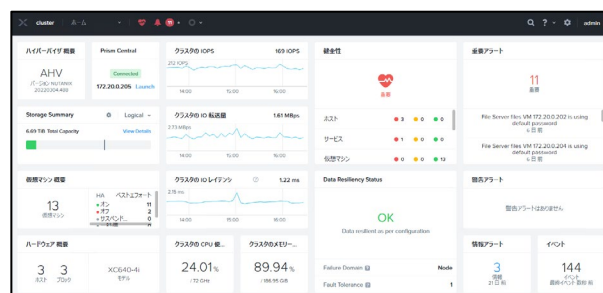
Roles
Cluster Admin, User Admin

Reset Password

Password

Back Cancel Save

- ブラウザを再読み込みすると、Prism が日本語表示に切り替わります。



8.2 サポートポータルユーザー登録について

製品ドキュメントの閲覧やソフトウェアのダウンロードにはサポートポータルへのログインが必要になります。ログインアカウントをお持ちでない場合は、以下のマニュアルをご参照いただき、アカウントの作成をお願いします。

<https://www.nutanix.com/content/dam/nutanix/ja/documents/support/doc-support-portal-user-account.pdf>

8.3 オーソライズド・ドメインについて

Nutanix 機器を保有するエンドユーザー様の代理で販売店様、保守会社様がサポートポータルへアクセスする場合は、エンドユーザー様によるオーソライズド・ドメインの申請が必要になります。

詳細は以下のマニュアルをご参照ください。

<https://www.nutanix.com/content/dam/nutanix/ja/documents/support/doc-support-portal-authorized-domain.pdf>

8.4 ライセンス適用について

弊社 Foundation 作業ではライセンス適用作業は実施しておりません。

以下のマニュアルをご参照いただき、ライセンスの取得、適用をお願いします。

<https://www.nutanix.com/content/dam/nutanix/ja/documents/support/doc-licensing.pdf>

8.5 ハイパーバイザー、CVM のパスワードについて

ハイパーバイザー、CVM の管理者アカウントのパスワードがデフォルトの場合、アラートが生成されることがあります。デフォルトのパスワードから変更される手順につきましては、以下のナレッジをご参照ください。

<https://portal.nutanix.com/kb/6153>

8.6 Nutanix 社への問い合わせについて

Nutanix 社へ技術的な問い合わせをする際は、サポートポータルまたは電話からサポートケースをオープンする必要があります。

具体的な手順については以下のマニュアルをご参照ください。

※いずれの問い合わせ方法でも、事前にサポートポータルユーザー登録が必要です

<https://www.nutanix.com/content/dam/nutanix/ja/documents/support/doc-support-portal-case-management.pdf>

8.7 HPE 保守サポートについて

HPE の保守サポート(ファウンデーションケア)を購入された場合は、製品の保守登録を実施してください。

8.8 Nutanix リンク集

■ 日本語サポートドキュメント一覧

<https://www.nutanix.com/jp/support-services/product-support/support-documentation>

■ 各種ソフトウェアのダウンロード ※要サポートポータルログイン

<https://portal.nutanix.com/page/downloads/>

■ 各種ソフトウェアドキュメント ※要サポートポータルログイン

<https://portal.nutanix.com/page/documents/list?type=software>

- Compatibility and Interoperability Matrix

ハードウェア、AOS、ハイパーバイザーの互換性情報 ※要サポートポータルログイン

<https://portal.nutanix.com/page/documents/compatibility-interoperability-matrix>

- Upgrade Paths

AOS、Prism Central などのアップグレードパス情報 ※要サポートポータルログイン

<https://portal.nutanix.com/page/documents/upgrade-paths>

9. 改訂履歴

Rev	修正年月日	内容	作成者
1.0	2022/1/28	・新規作成	ディーアイエスサービス&ソリューション株式会社
2.0	2022/9/9	・「Prism Central のデプロイ・設定」を追加	ディーアイエスサービス&ソリューション株式会社
3.0	2024/7/1	・AOS 6.5 に対応 ・DX Gen11 に対応	ディーアイエスサービス&ソリューション株式会社